

(資料1)

檀原市 移住者に対するアンケート調査

報告書

I. 調査概要

1. 調査の目的

- 橿原市及び周辺地域に移住した方を対象に調査を実施し、移住のきっかけ、検討の流れ、移住先を決めた経緯、住まい・仕事探し等について把握した。
- 調査対象はインターネットアンケート会社のモニターから、橿原市及び周辺地域に移住経験のある方のうち、転入にあたって居住地域（市町村）または住まいを自らの意思で選択した方を対象としている。

2. 実施概要

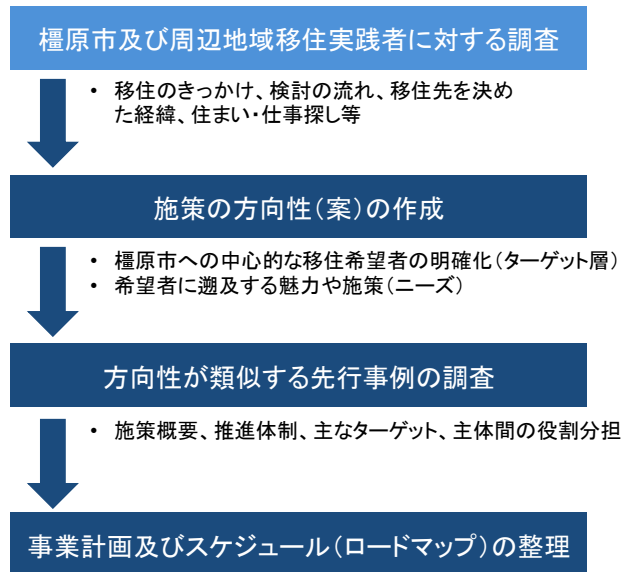
- 実施時期：2021年3月
- 回収サンプル：207サンプル

		移住時期		計
		2017年以前	2018年以降	
移住先	橿原市	82	34	116
	周辺地域※	0	91	91
計		82	125	207

※大和高田市、天理市、桜井市、五條市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、田原本町、明日香村、広陵町、高取町

- 主な設問
 - ・ 移住者属性
 - ・ 移住に至った経緯
 - ・ 移住先を選んだポイント（選定にあたり重視したポイント）
 - ・ 認知の経緯、活用した支援方法、情報の収集方法
 - ・ 住まい探しの方法
 - ・ 起業・創業の有無・志向

【本業務におけるアンケート調査の位置づけ】



調査結果は、次頁以降に示すとおりである。なお、回答は小数点以下第2位以降を四捨五入しているため、各設問の選択肢の合計が100%にならないことがある。

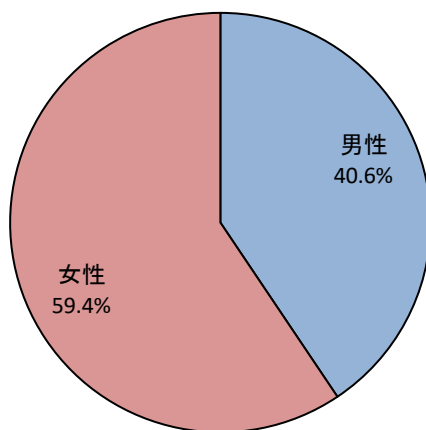
II. 単純集計結果

1. 回答者属性

① 性別

性別をみると、「女性」が59.4%、「男性」が40.6%となっている。

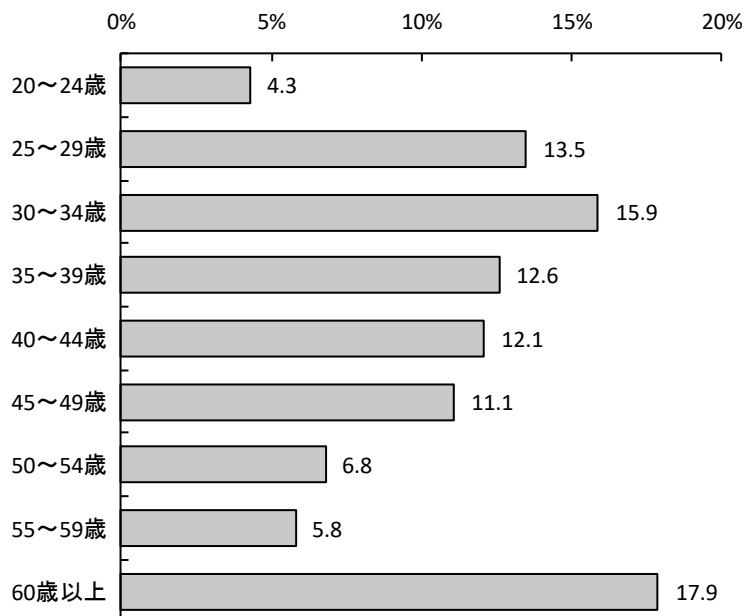
図表 1 性別 [n=207]



② 年齢

年齢をみると、「60歳以上」が17.9%と最も高く、次いで「30～34歳」が15.9%となっている。

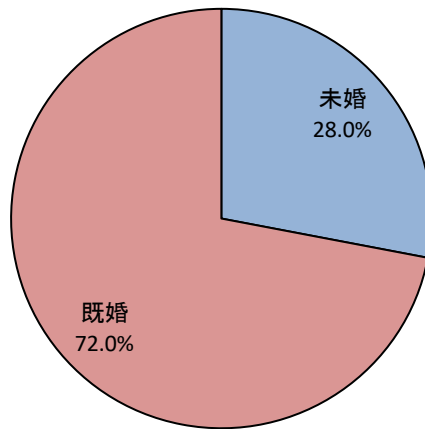
図表 2 年齢 [n=207]



③ 未既婚

未既婚をみると、「未婚」が28.0%、「既婚」が72.0%となっている。

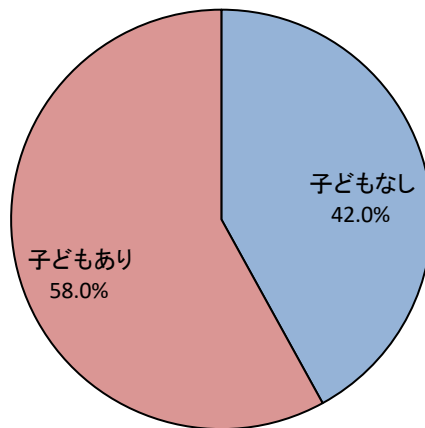
図表 3 未既婚 [n=207]



④ 子どもの有無

子どもの有無をみると、「子どもなし」が42.0%、「子どもあり」が58.0%となっている。

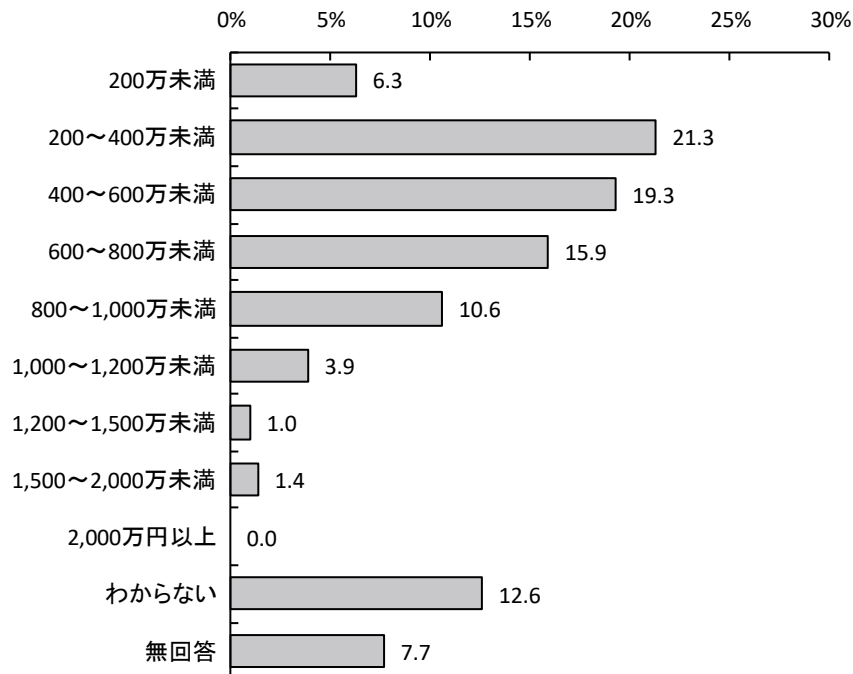
図表 4 子どもの有無 [n=207]



⑤ 世帯年収

世帯年収をみると、「200～400万未満」が21.3%と最も高く、次いで「400～600万未満」が19.3%、「600～800万未満」が15.9%となっている。

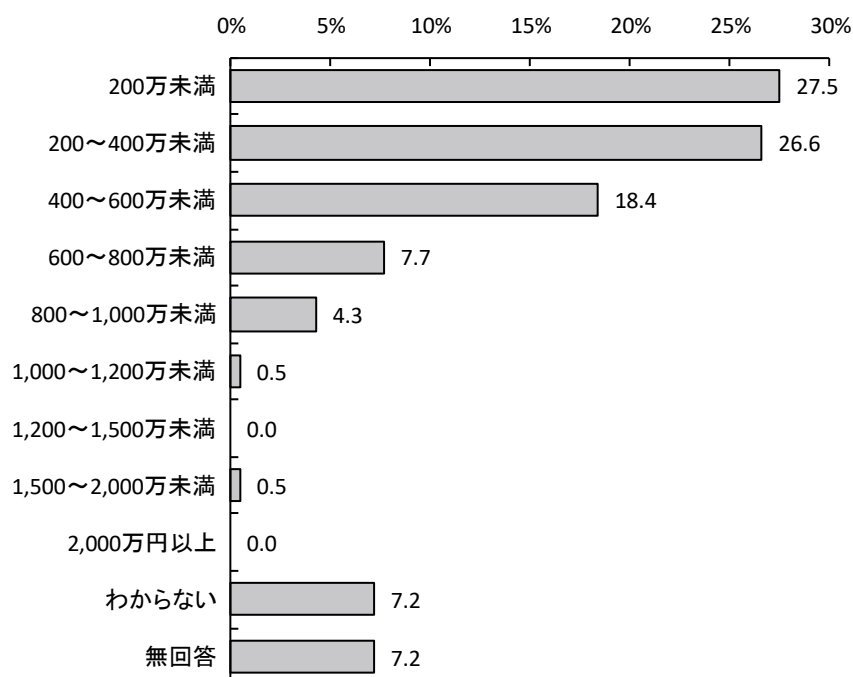
図表 5 世帯年収 [n=207]



⑥ 個人年収

個人年収をみると、「200万未満」が27.5%と最も高く、次いで「200～400万未満」が26.6%、「400～600万未満」が18.4%となっている。

図表 6 個人年収 [n=207]

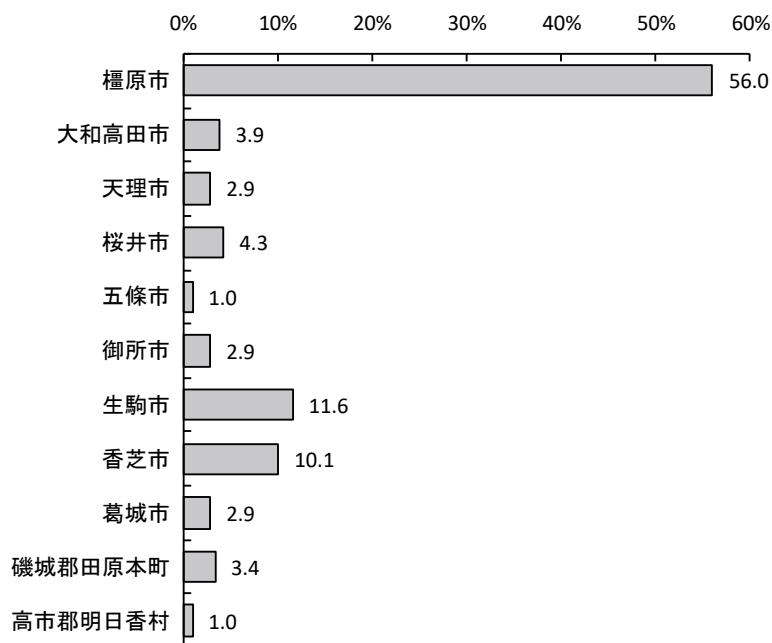


2. スクリーニング調査

① 現在の居住地

現在の居住地をみると、「橿原市」が56.0%、次いで「生駒市」が11.6%、「香芝市」が10.1%となっている。

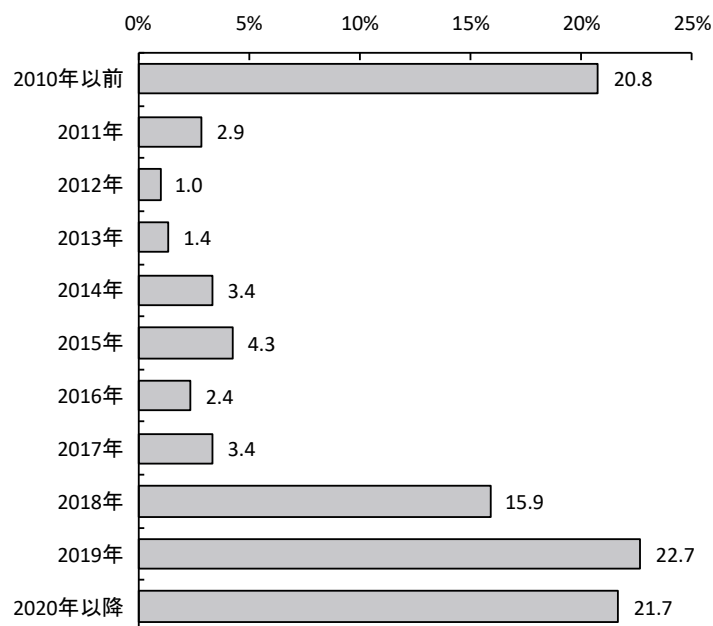
図表 7 現在の居住地 [n=207]



② 移住時期

現在の居住地への移住時期をみると、「2019年」が22.7%と最も高く、次いで「2020年以降」が21.7%、「2010年以前」が20.8%となっている。

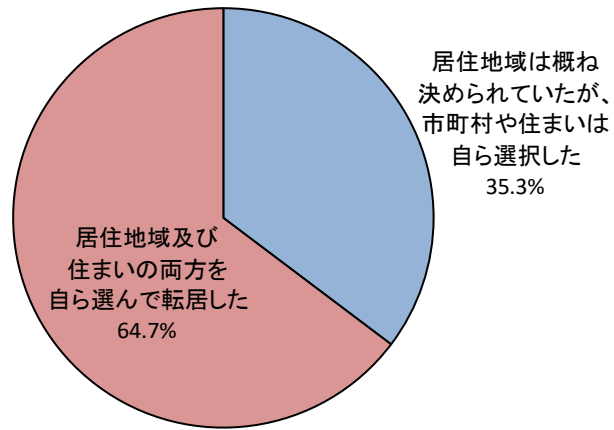
図表 8 移住時期 [n=207]



③ 移住にあたっての居住地・住まい選択への自身の関与

移住にあたっての居住地・住まい選択への自身の関与をみると、「居住地及び住まいの両方を自ら選んで転居した」が 64.7%、「居住地は概ね決められていたが、市町村や住まいは自ら選択した」が 35.3%となっている。

図表 9 移住にあたっての居住地・住まい選択への自身の関与 [n=207]



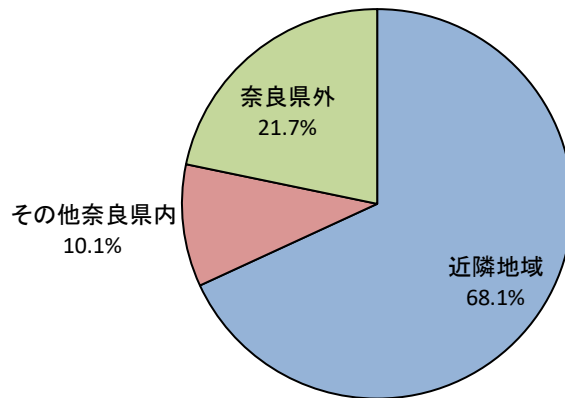
3. 本調査

(1) 住まい・仕事について

① 前住地

前住地をみると、「近隣地域」が68.1%と最も高くなっている。

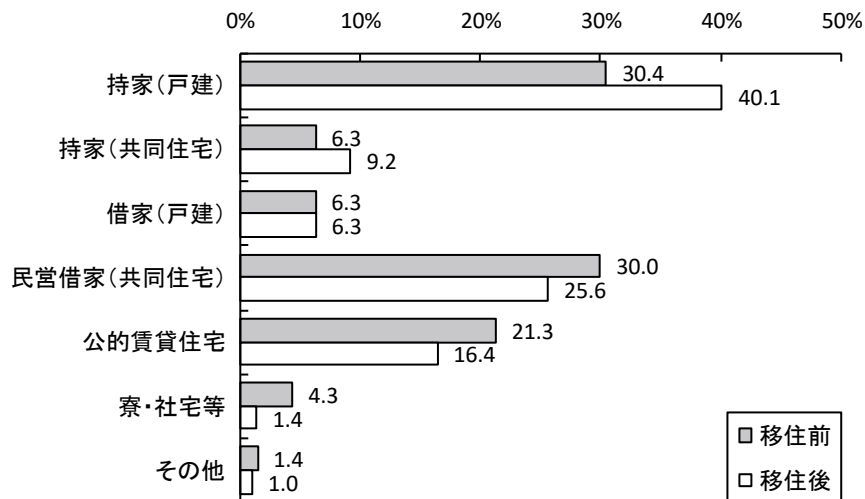
図表 10 前住地 [n=207]



② 移住前後の住まいの種別

住まいの種別をみると、移住前・移住後とも「持家（戸建）」（移住前 30.4%・移住後 40.1%）が最も高く、次いで「民営借家（共同住宅）」（移住前 30.0%・移住後 25.6%）となっている。移住後は、移住前よりも「持家（戸建）」がやや高くなっている。

図表 11 移住前後の住まいの種別 [n=207]

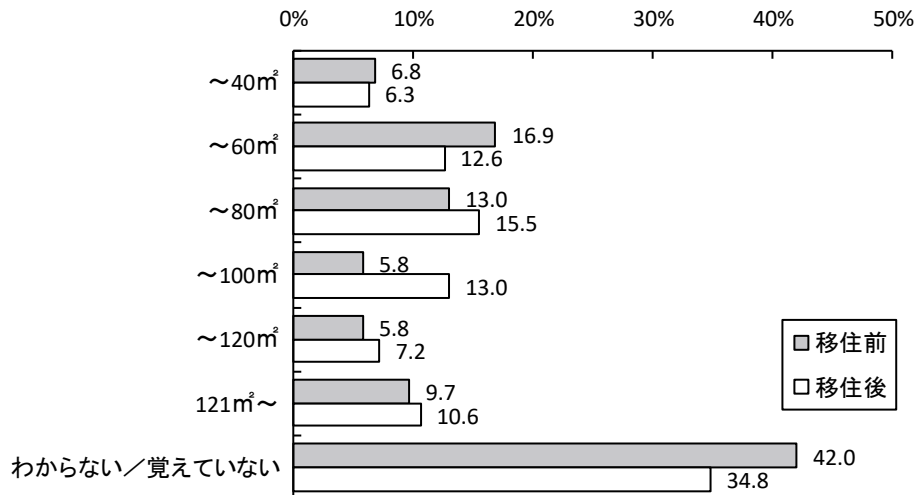


③ 移住前後の住まいの広さ

住まいの広さをみると、移住前は「～60㎡」が16.9%と最も高く、次いで「～80㎡」が13.0%となっている。

また、移住後は「～80㎡」が15.5%と最も高く、次いで「～100㎡」が13.0%となっている。移住後は、移住前よりも「～100㎡」がやや高くなっている。

図表 1 2 移住前後の住まいの広さ [n=207]

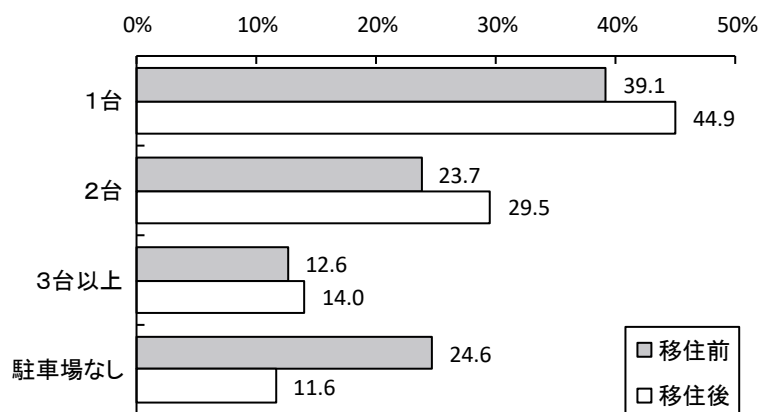


④ 移住前後の住まいの駐車場

住まいの駐車場をみると、移住前・移住後とも「1台」(移住前 39.1%・移住後 44.9%)が最も高くなっている。

移住後は、移住前よりも「駐車場なし」が低くなっている。

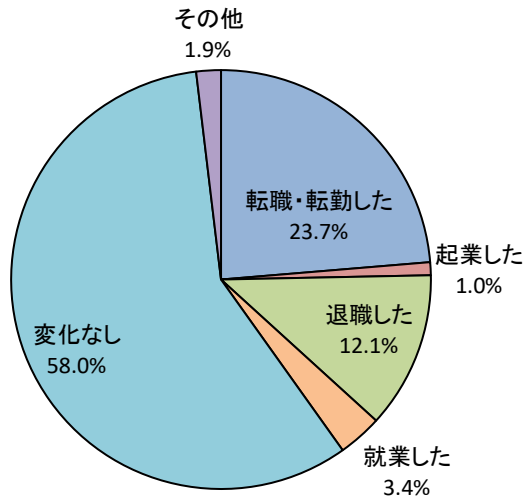
図表 1 3 移住前後の住まいの駐車場 [n=207]



⑤ 移住前後の仕事の変化の有無

移住前後の仕事の変化の有無をみると、「変化なし」が58.0%と最も高く、次いで「転職・転勤した」が23.7%となっている。

図表 1 4 移住前後の仕事の変化の有無 [n=207]

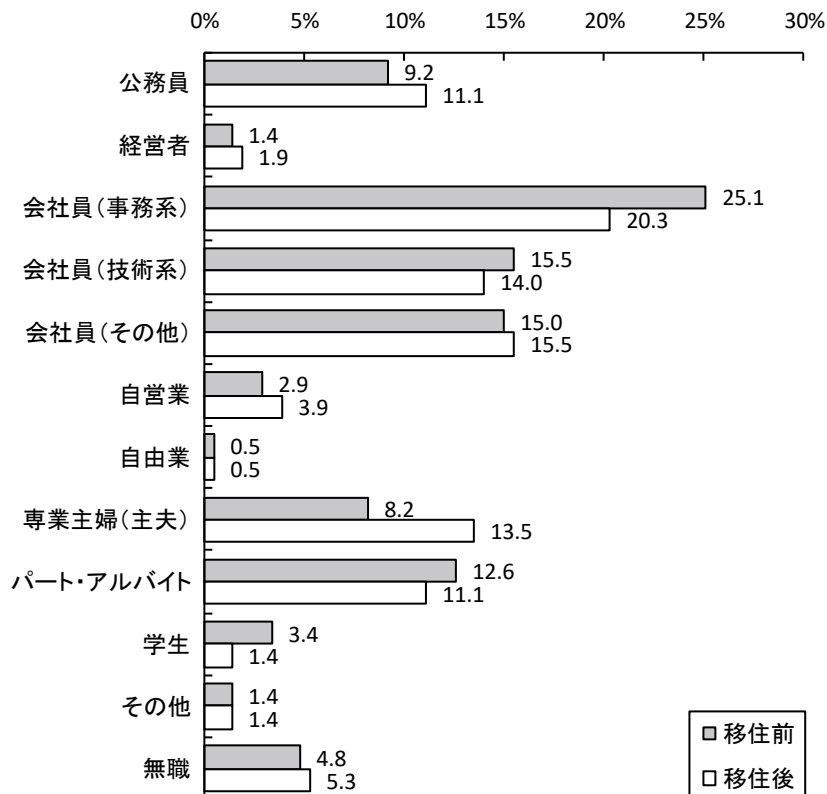


⑥ 移住前後の職業

職業をみると、移住前・移住後とも「会社員（事務系）」（移住前 25.1%・移住後 20.3%）が最も高くなっている。

移住後は、移住前よりも「専業主婦（主夫）」がやや高くなっている。

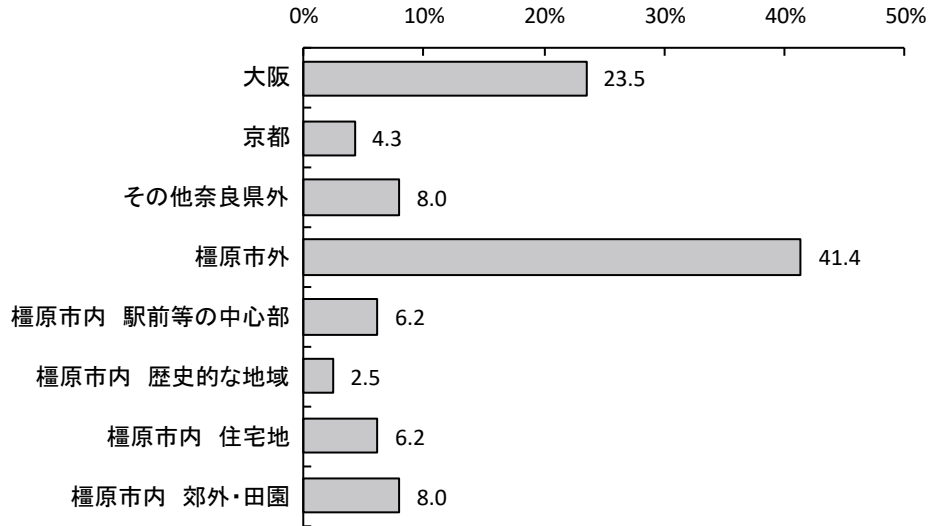
図表 1 5 移住前後の職業 [n=207]



⑦ 移住後の就業場所

現在、仕事をしている人について、就業場所をみると、「橿原市外」が41.4%と最も高く、次いで「大阪」が23.5%となっている。「橿原市内」(地域合計)は22.9%となっている。

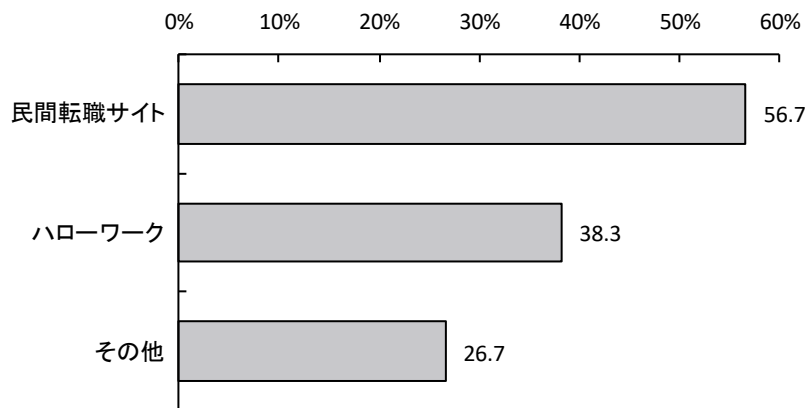
図表 1 6 移住後の就業場所 [n=162]



⑧ 移住に伴っての仕事の探し方

移住に伴って転職・転勤、就業等をした人について、仕事の探し方をみると、「民間転職サイト」が56.7%と最も高くなっている。

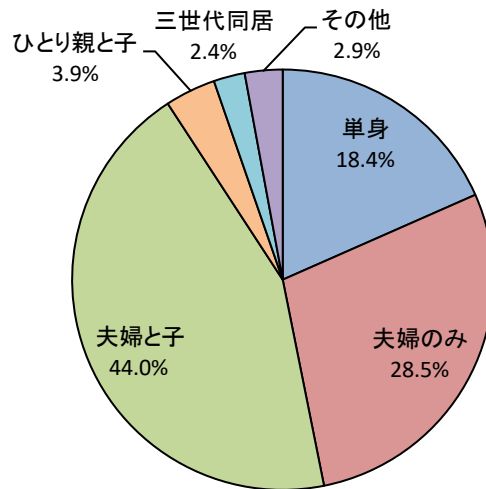
図表 1 7 移住に伴っての仕事の探し方 [n=60]



⑨ 世帯類型

世帯類型をみると、「夫婦と子」が44.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が28.5%となっている。

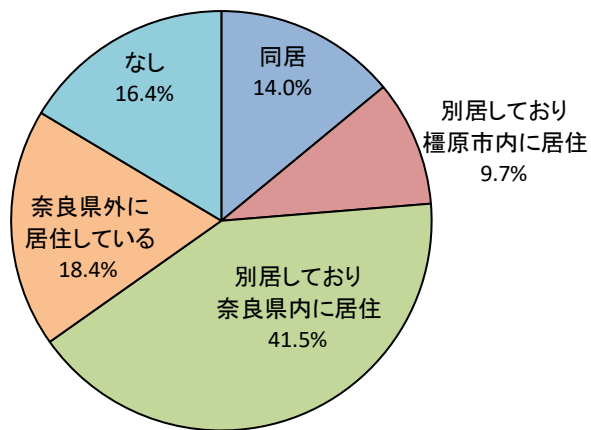
図表 18 世帯類型 [n=207]



⑩ 親世帯の居住地

親世帯の居住地をみると、「別居しており奈良県内に居住」が41.5%と最も高く、次いで「奈良県外に居住している」が18.4%となっている。

図表 19 親世帯の居住地 [n=207]

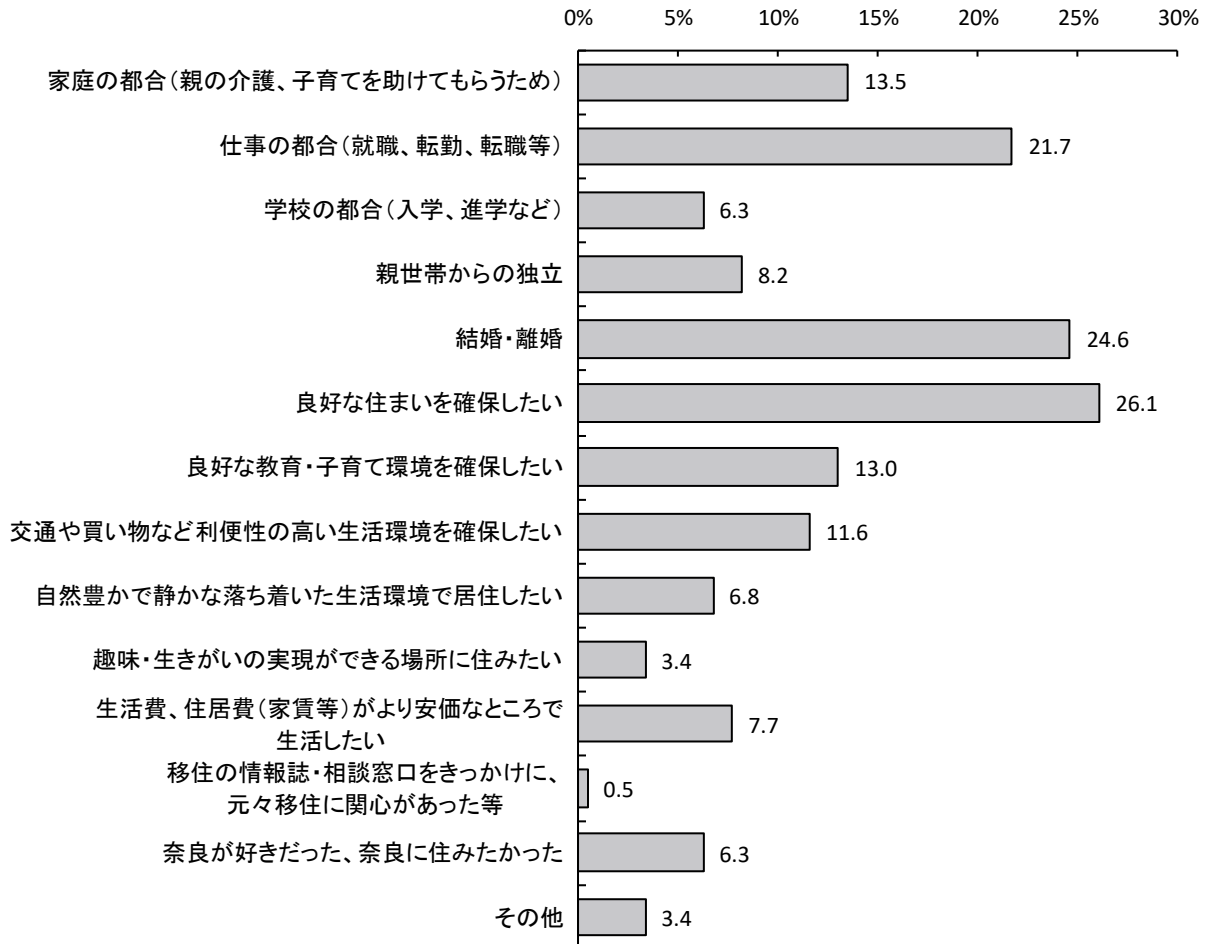


(2) 移住に至る経緯

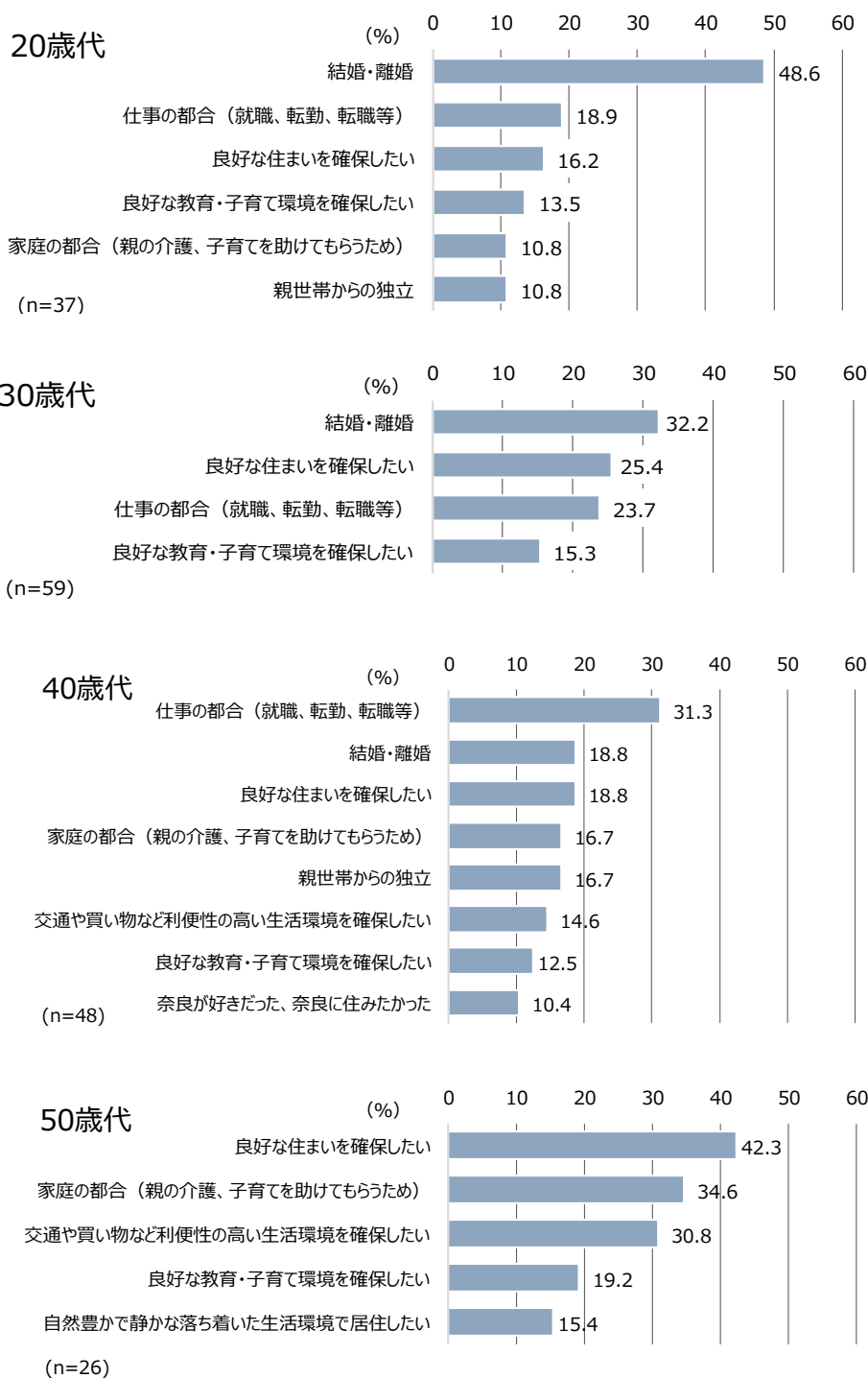
① 前住地からの転出（移住）理由

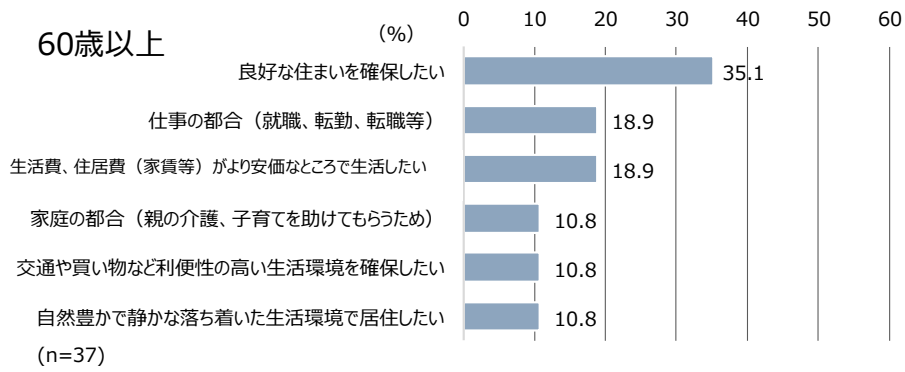
前住地からの転出（移住）理由をみると、「良好な住まいを確保したい」が26.1%と最も高く、次いで「結婚・離婚」が24.6%、「仕事の都合（就職、転勤、転職等）」が21.7%となっている。

図表 20 前住地からの転出（移住）理由 [n=207]



図表 2 1 前住地からの転出（移住）理由（年代別）

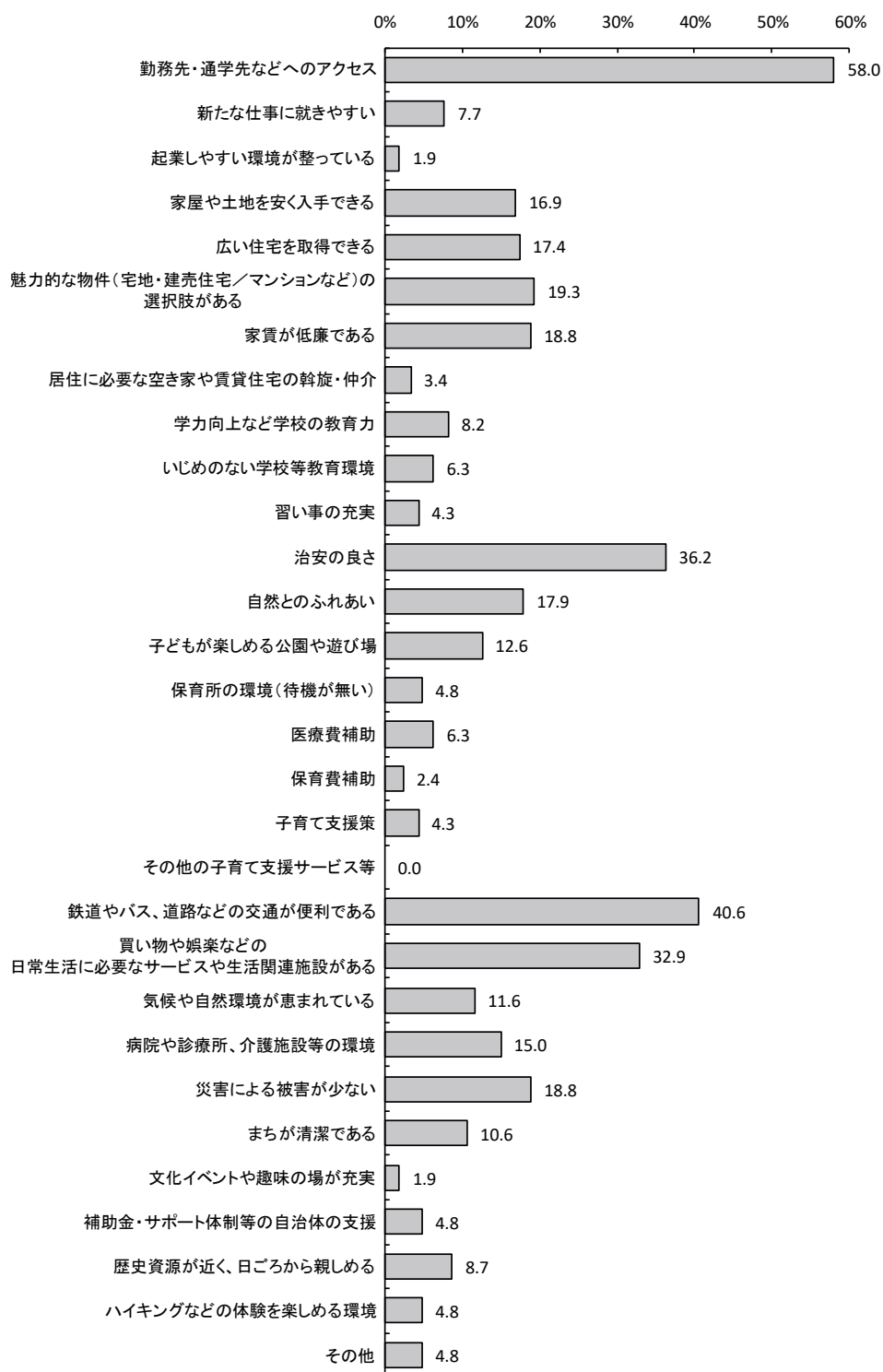




② 移住先を選ぶ上で重視したポイント

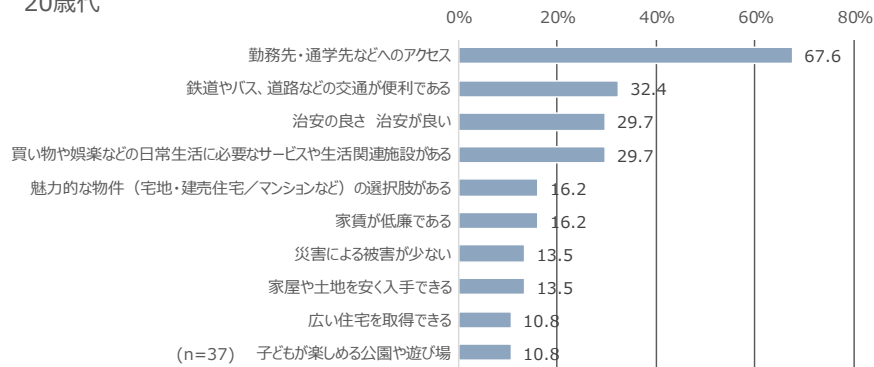
移住先を選ぶ上で重視したポイントを見ると、「勤務先・通学先などへのアクセス」が 58.0%と最も高く、次いで「鉄道やバス、道路などの交通が便利である」が 40.6%、「治安の良さ」が 36.2%、「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設がある」が 32.9%となっている。

図表 2 2 移住先を選ぶ上で重視したポイント [n=207]

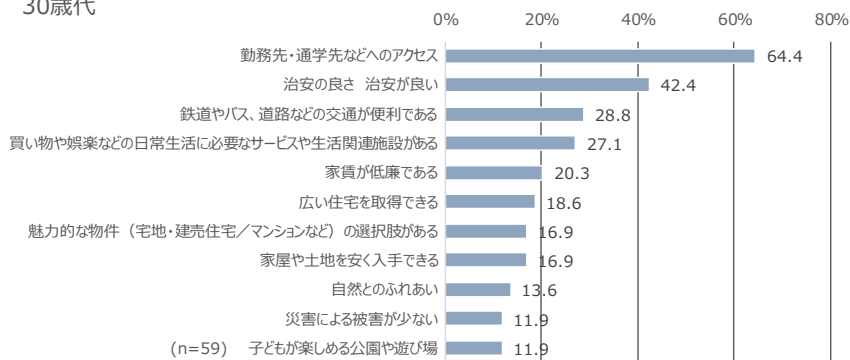


図表 2 3 移住先を選ぶ上で重視したポイント (年代別 上位 10 位)

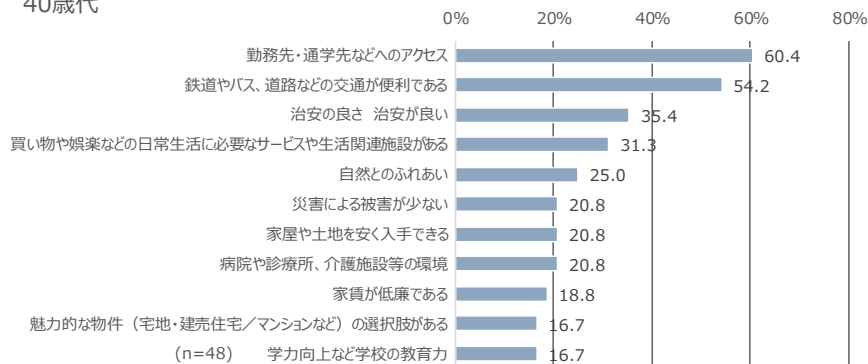
20歳代



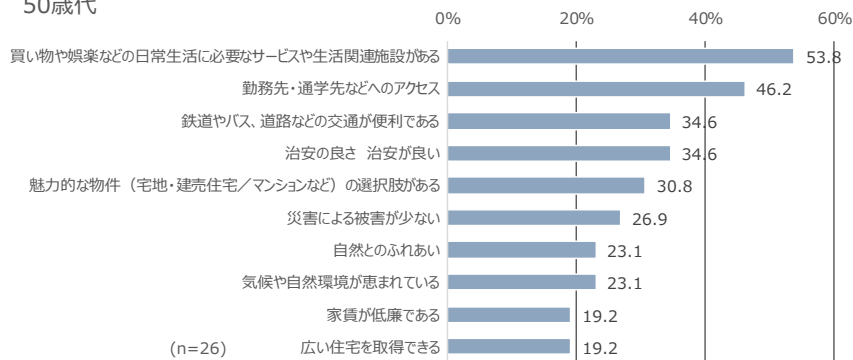
30歳代



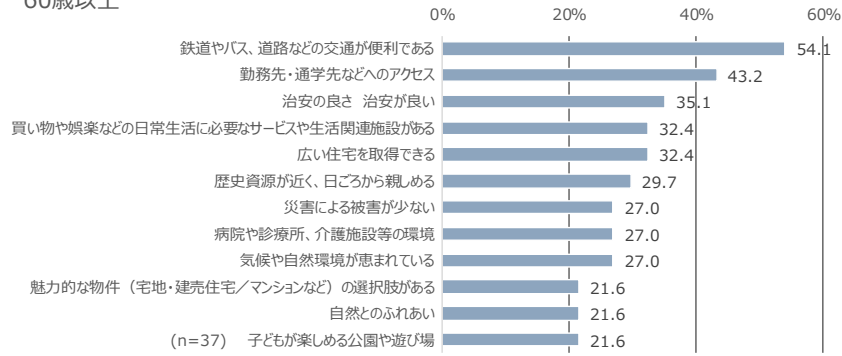
40歳代



50歳代



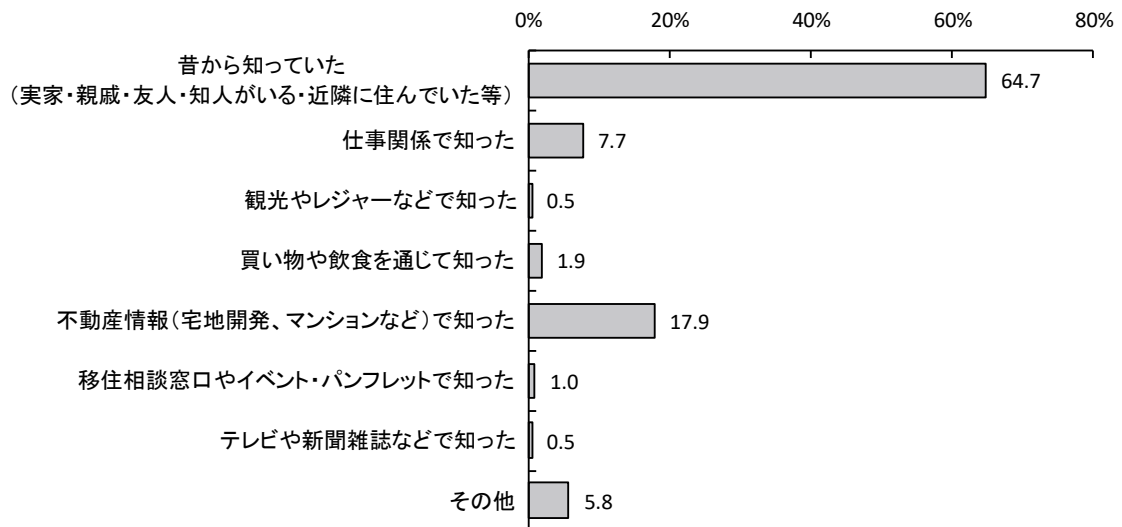
60歳以上



③ 移住先の認知のきっかけ

移住先の認知のきっかけをみると、「昔から知っていた（実家・親戚・友人・知人がいる・近隣に住んでいた等）」が64.7%と最も高く、次いで「不動産情報（宅地開発、マンションなど）で知った」が17.9%となっている。

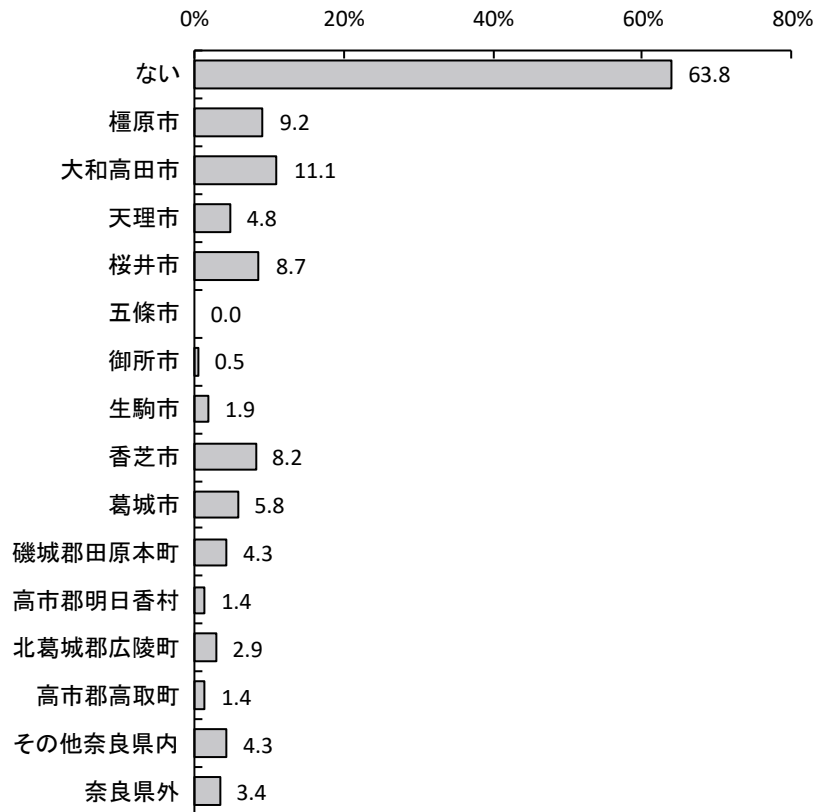
図表 2 4 移住先の認知のきっかけ [n=207]



④ 現住地域以外に検討した移住先

現住地域以外に検討した移住先をみると、「ない」が63.8%と最も高く、次いで「大和高田市」が11.1%、「橿原市」が9.2%となっている。

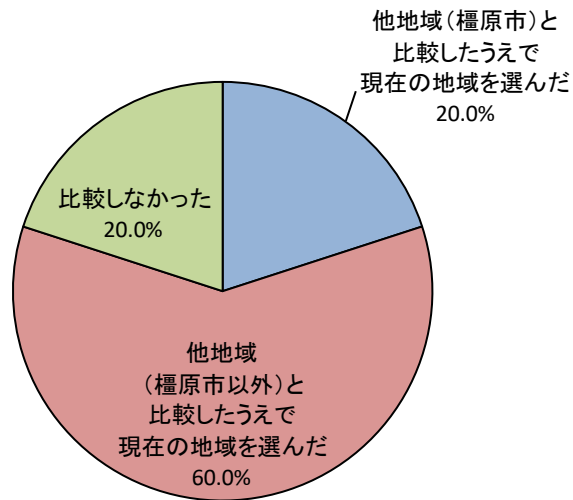
図表 25 現住地域以外に検討した移住先 [n=207]



⑤ 移住先の検討方法

現住地域以外の地域を移住先候補として検討した人について、移住先の検討方法をみると、「他地域（檀原市以外）と比較したうえで現在の地域を選んだ」が60.0%と最も高くなっている。

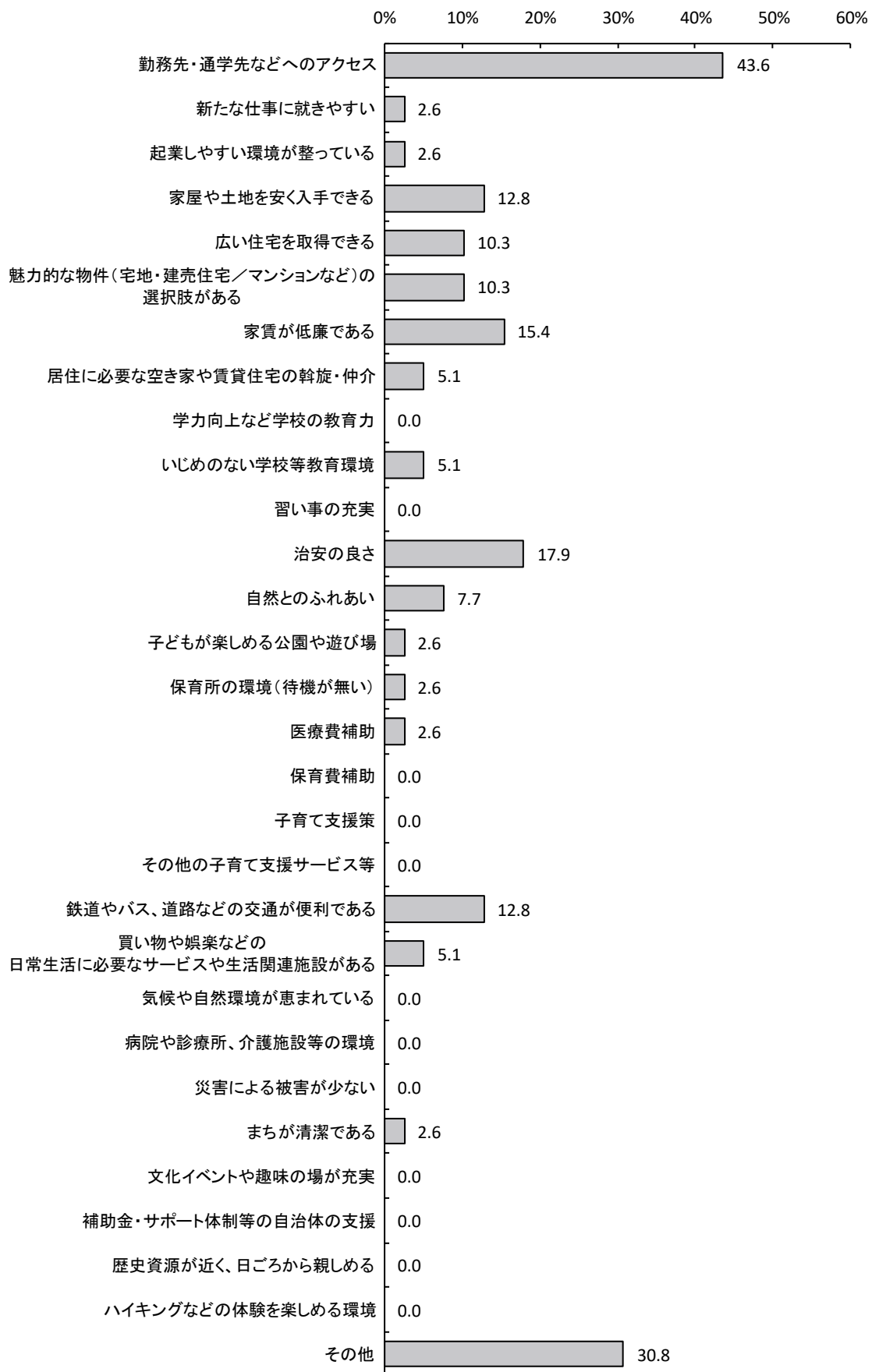
図表 2 6 移住先の検討方法 [n=75]



⑥ 檀原市を選ばなかった理由

現住地域以外の地域を移住先候補として検討したが、檀原市を選ばなかった人について、その理由をみると、「勤務先・通学先などへのアクセス」が43.6%と最も高く、次いで「治安の良さ」が17.9%、「家賃が低廉である」が15.4%、「家屋や土地を安く入手できる」「鉄道やバス、道路などの交通が便利である」がともに12.8%となっている。

図表 27 檀原市を選ばなかった理由 [n=39]

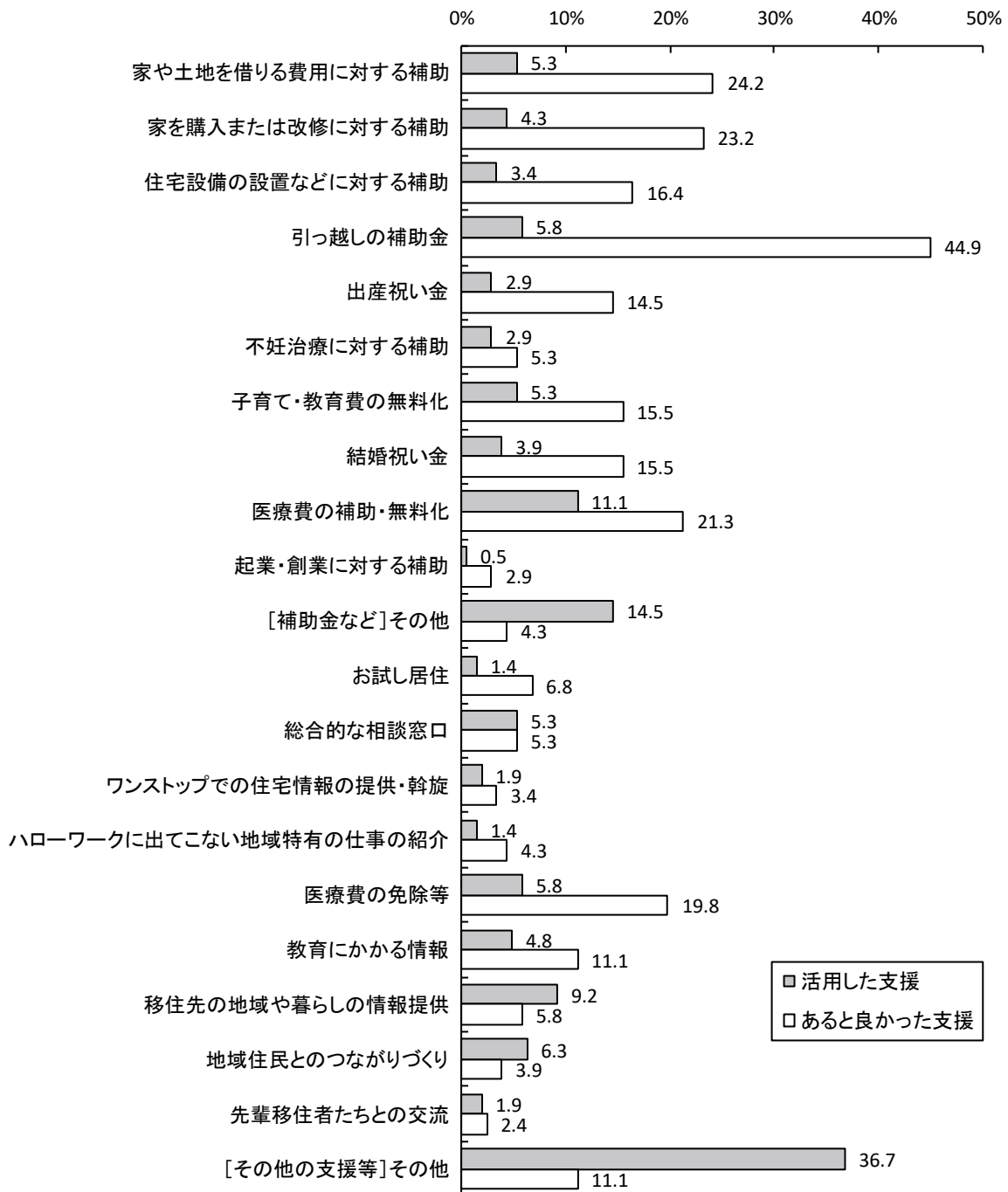


⑦ 移住に際して活用した・あると良かった支援

移住に際して活用した支援をみると、「その他」を除けば「医療費の補助・無料化」が 11.1%と最も高く、次いで「移住先の地域や暮らしの情報提供」が 9.2%となっている。

移住に際してあると良かった支援をみると、「引っ越しの補助金」が 44.9%と最も高く、次いで「家や土地を借りる費用に対する補助」が 24.2%、「家を購入または改修に対する補助」が 23.2%、「医療費の補助・無料化」が 21.3%となっている。

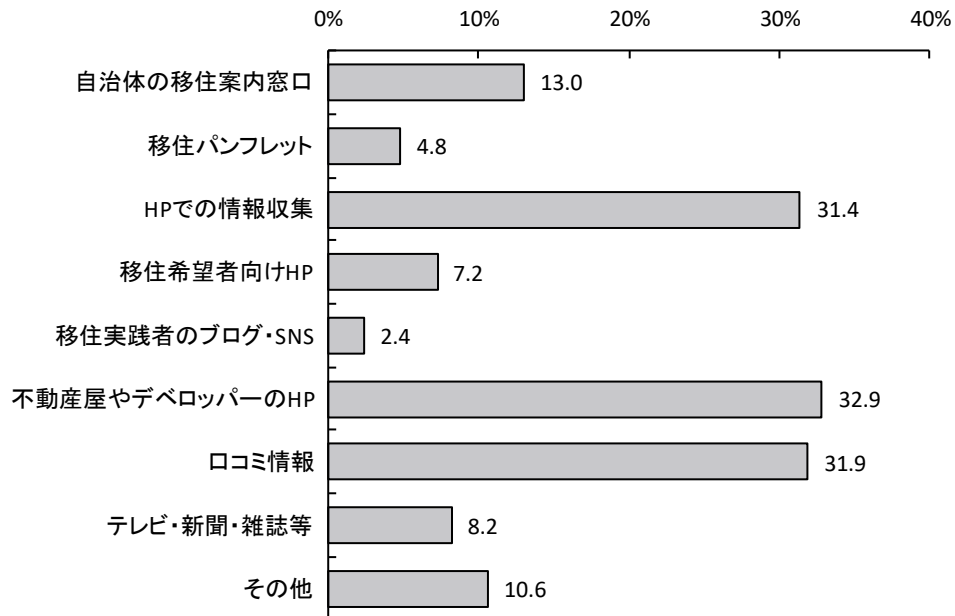
図表 28 移住に際して活用した・あると良かった支援 [n=207]



⑧ 移住先検討の際の情報収集方法

移住先検討の際の情報収集方法をみると、「不動産屋やデベロッパーのHP」が32.9%と最も高く、次いで「口コミ情報」が31.9%、「HPでの情報収集」が31.4%となっている。

図表 29 移住先検討の際の情報収集方法 [n=207]

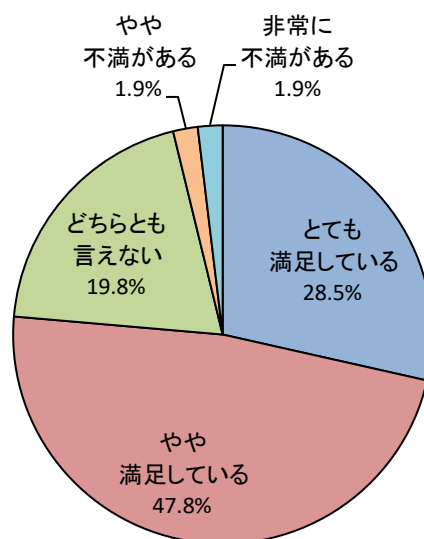


(3) 移住後の満足度

移住後の満足度をみると、「やや満足している」が47.8%と最も高く、次いで「とても満足している」が28.5%となっている。

満足している人（「とても満足している」「やや満足している」の計）は76.3%、不満がある人（「やや不満がある」「非常に不満がある」の計）は3.9%となっている。

図表 30 移住後の満足度 [n=207]

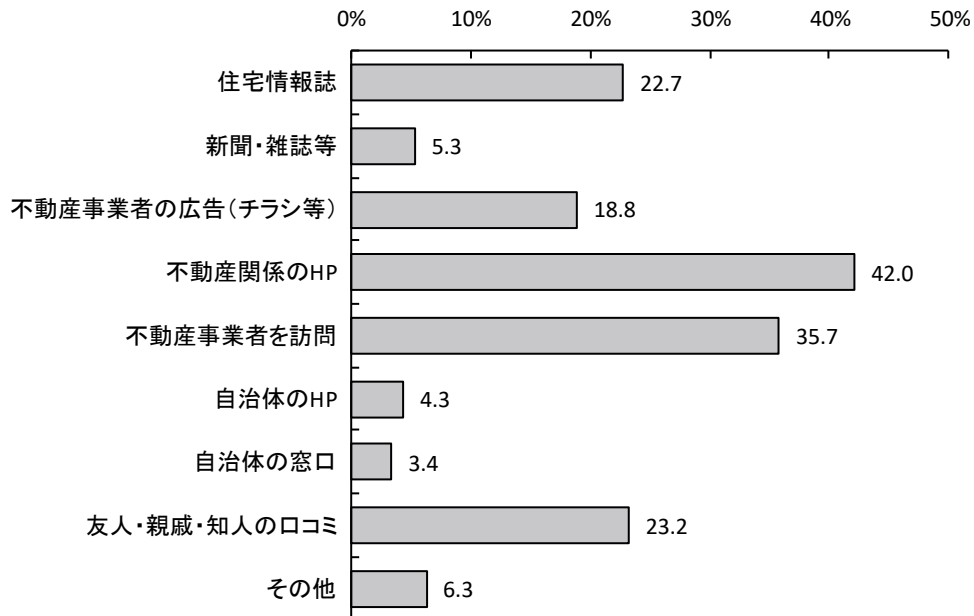


(4) 住まい探しについて

① 移住するにあたっての住まい探しの方法

移住するにあたっての住まい探しの方法をみると、「不動産関係のHP」が42.0%と最も高く、次いで「不動産事業者を訪問」が35.7%となっている。

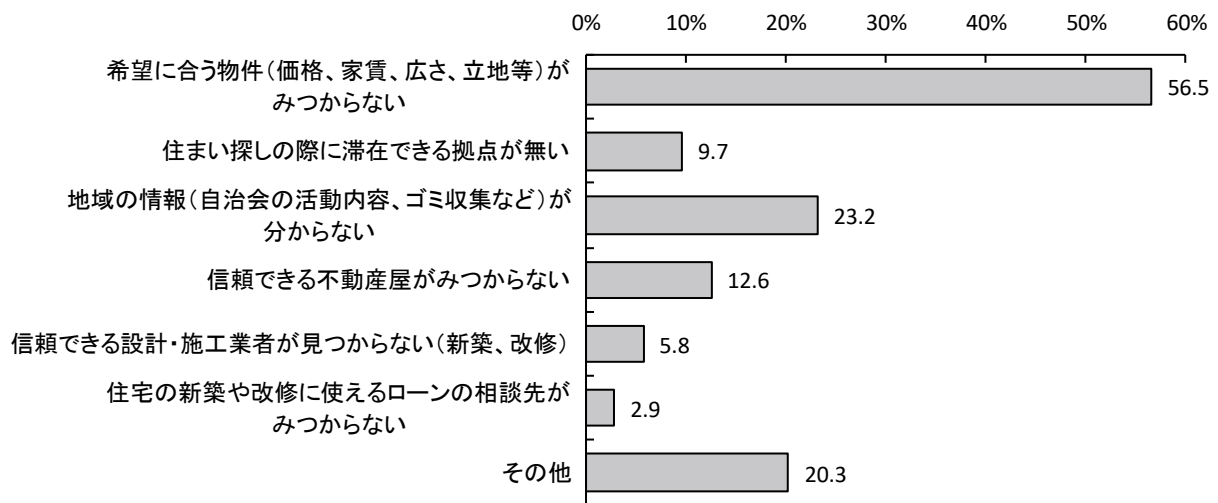
図表 3 1 移住するにあたっての住まい探しの方法 [n=207]



② 住まい探しで困ったこと

住まい探しで困ったことをみると、「希望に合う物件（価格、家賃、広さ、立地等）が見つからない」が56.5%と最も高く、次いで「地域の情報（自治会の活動内容、ゴミ収集など）が分からない」が23.2%となっている。

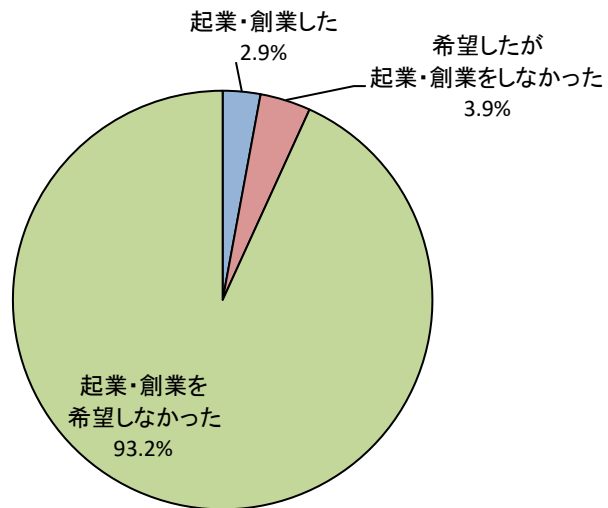
図表 3 2 住まい探しで困ったこと [n=207]



(5) 移住に伴う起業・創業について

移住に伴う起業・創業の有無をみると、「起業・創業を希望しなかった」が 93.2%と最も高くなっている。

図表 3 3 移住に伴う起業・創業の有無 [n=207]



III. 橿原市移住者の集計結果

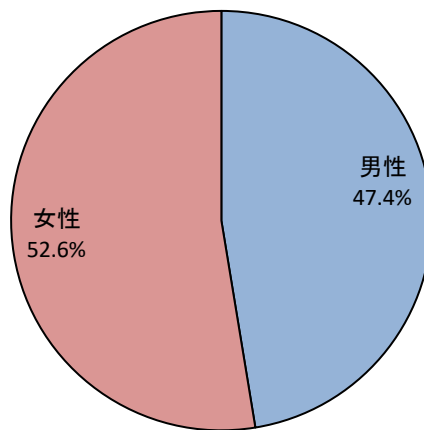
以下では、アンケート調査のうち、橿原市への移住者（n=116）に限定した集計結果を示す。

1. 回答者属性

① 性別

性別をみると、「女性」が52.6%、「男性」が47.4%となっている。

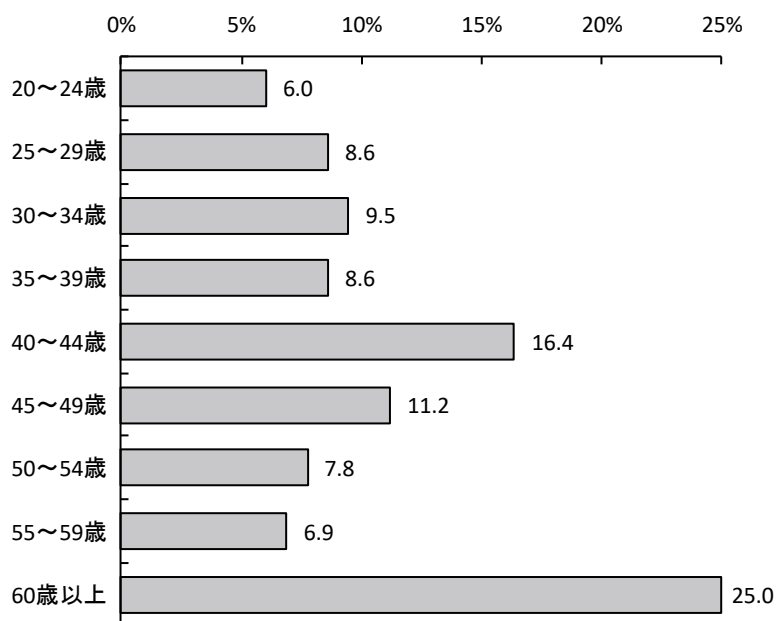
図表 3 4 性別 [n=116]



② 年齢

年齢をみると、「60歳以上」が25.0%と最も高く、次いで「40～44歳」が16.4%となっている。

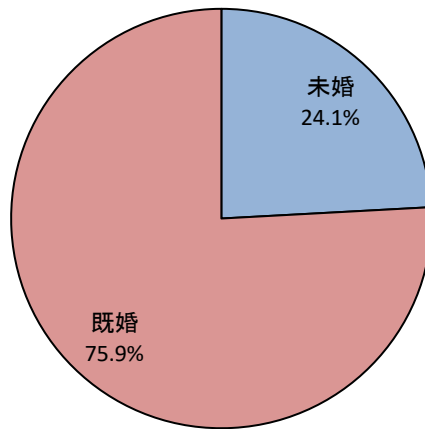
図表 3 5 年齢 [n=116]



③ 未既婚

未既婚をみると、「未婚」が24.1%、「既婚」が75.9%となっている。

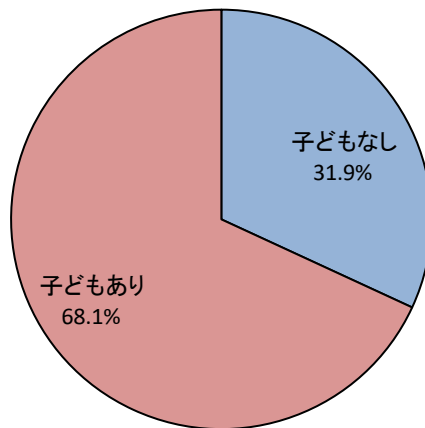
図表 3 6 未既婚 [n=116]



④ 子どもの有無

子どもの有無をみると、「子どもなし」が31.9%、「子どもあり」が68.1%となっている。

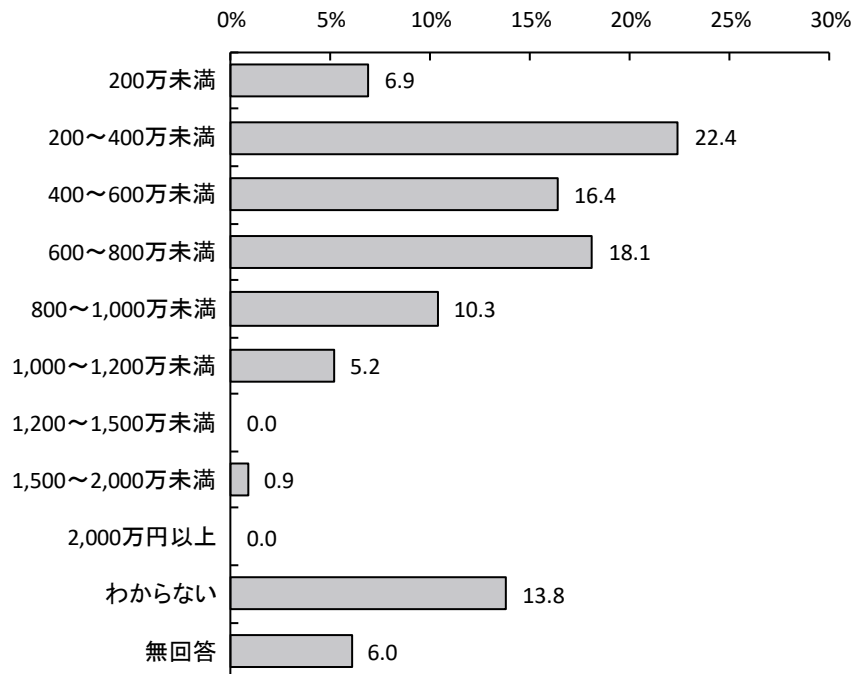
図表 3 7 子どもの有無 [n=116]



⑤ 世帯年収

世帯年収をみると、「200～400万未満」が22.4%と最も高く、次いで「600～800万未満」が18.1%、「400～600万未満」が16.4%となっている。

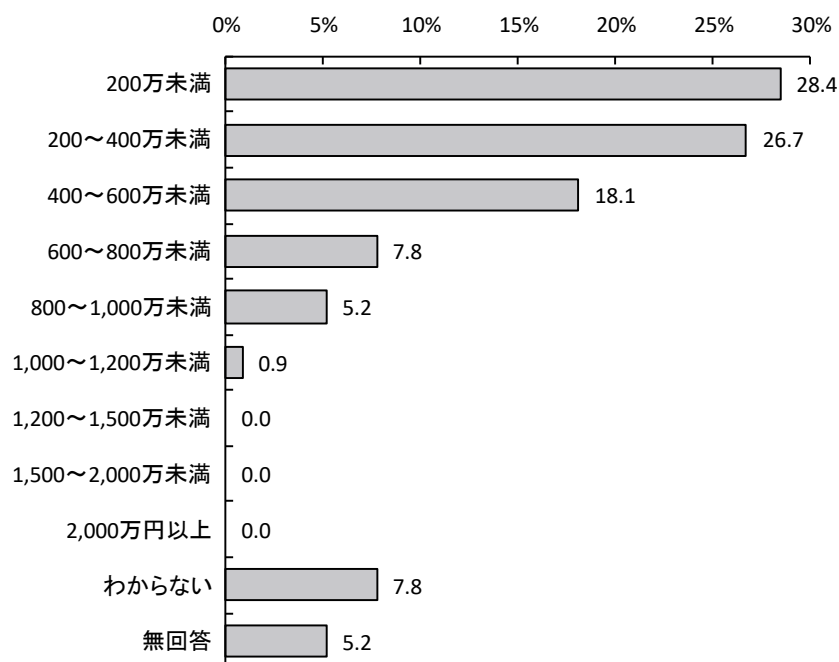
図表 3 8 世帯年収 [n=116]



⑥ 個人年収

個人年収をみると、「200万未満」が28.4%と最も高く、次いで「200～400万未満」が26.7%、「400～600万未満」が18.1%となっている。

図表 3 9 個人年収 [n=116]

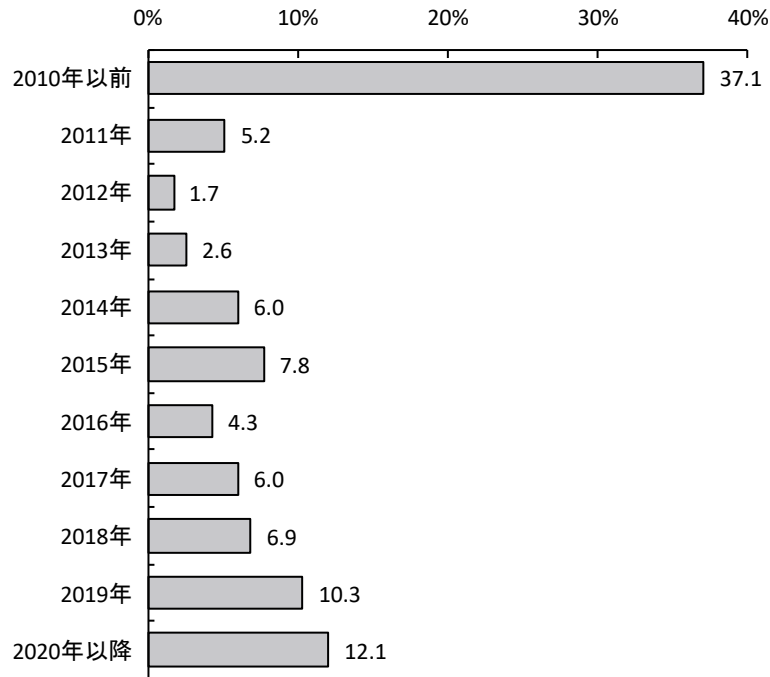


2. スクリーニング調査

① 移住時期

現在の居住地への移住時期をみると、「2010年以前」が37.1%と最も高く、次いで「2020年以降」が12.1%、「2019年」が10.3%となっている。

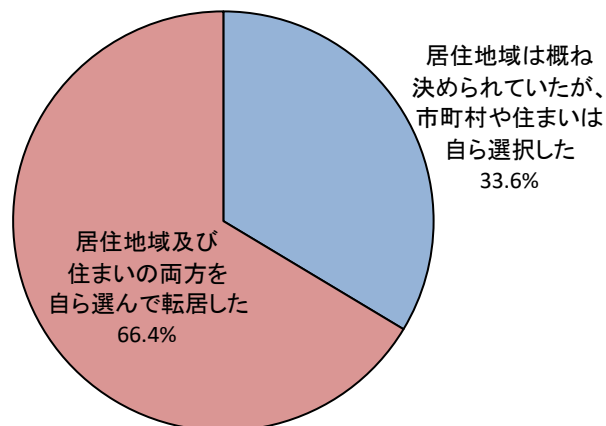
図表 4 0 移住時期 [n=116]



② 移住にあたっての居住地域・住まい選択への自身の関与

移住にあたっての居住地域・住まい選択への自身の関与をみると、「居住地域及び住まいの両方を自ら選んで転居した」が66.4%、「居住地域は概ね決められていたが、市町村や住まいは自ら選択した」が33.6%となっている。

図表 4 1 移住にあたっての居住地域・住まい選択への自身の関与 [n=116]



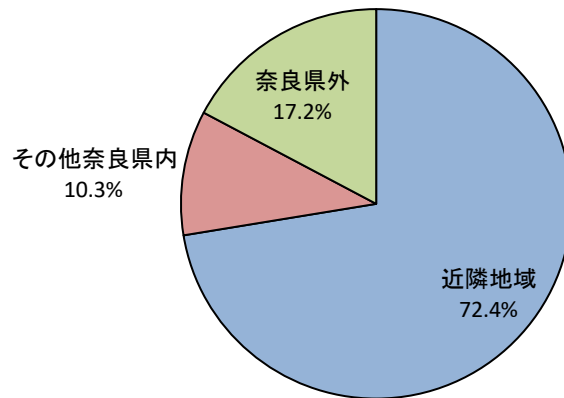
3. 本調査

(1) 住まい・仕事について

① 前住地

前住地をみると、「近隣地域」が72.4%と最も高くなっている。

図表 4 2 前住地 [n=116]

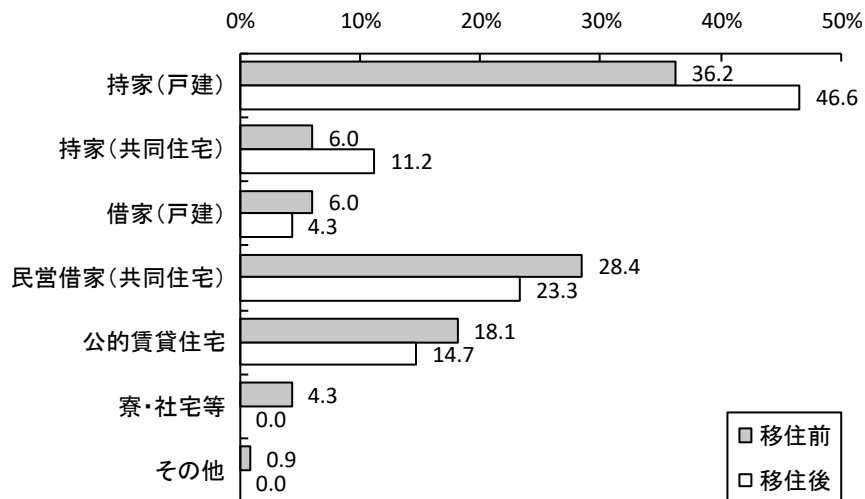


② 移住前後の住まいの種別

住まいの種別をみると、移住前・移住後とも「持家（戸建）」（移住前 36.2%・移住後 46.6%）が最も高く、次いで「民営借家（共同住宅）」（移住前 28.4%・移住後 23.3%）となっている。

移住後は、移住前よりも「持家（戸建）」が高くなっている。

図表 4 3 移住前後の住まいの種別 [n=116]

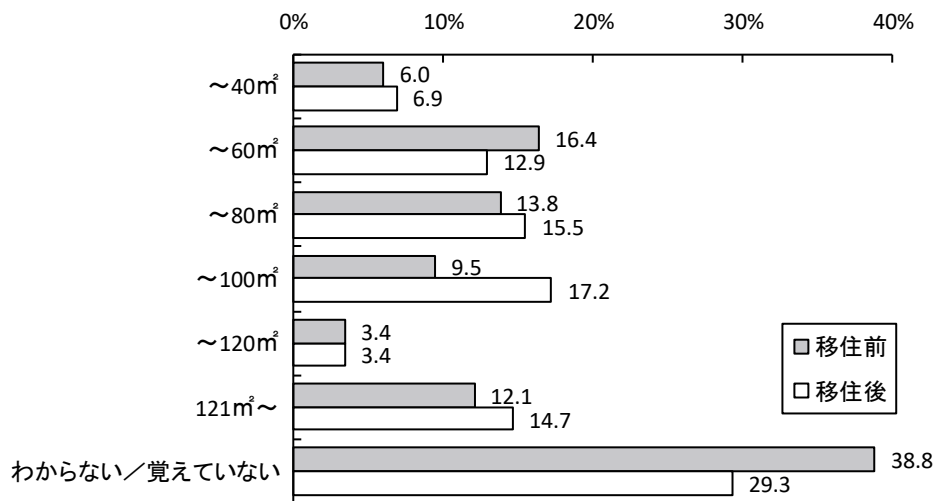


③ 移住前後の住まいの広さ

住まいの広さをみると、移住前は「～60㎡」が16.4%と最も高く、次いで「～80㎡」が13.8%となっている。

また、移住後は「～100㎡」が17.2%と最も高く、次いで「～80㎡」が15.5%となっている。移住後は、移住前よりも「～100㎡」がやや高くなっている。

図表 4 4 移住前後の住まいの広さ [n=116]

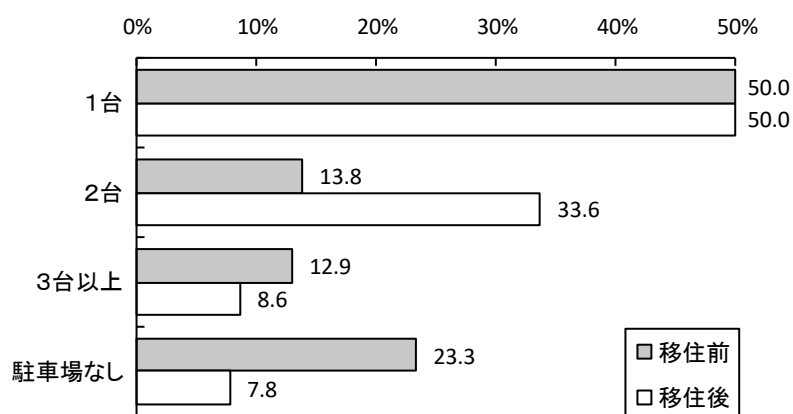


④ 移住前後の住まいの駐車場

住まいの駐車場をみると、移住前・移住後とも「1台」(移住前・移住後ともに50.0%)が最も高くなっている。

移住後は、移住前よりも「2台」が高く、「駐車場なし」が低くなっている。

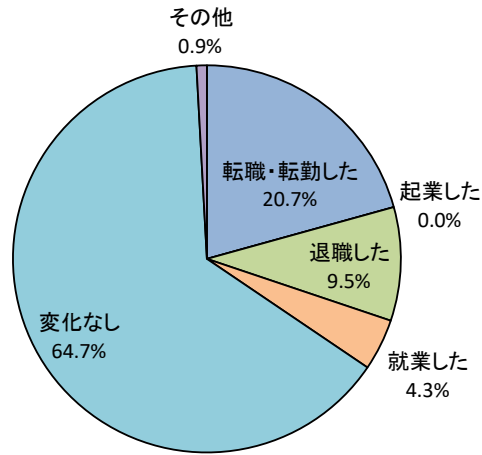
図表 4 5 移住前後の住まいの駐車場 [n=116]



⑤ 移住前後の仕事の変化の有無

移住前後の仕事の変化の有無をみると、「変化なし」が64.7%と最も高く、次いで「転職・転勤した」が20.7%となっている。

図表 4 6 移住前後の仕事の変化の有無 [n=116]

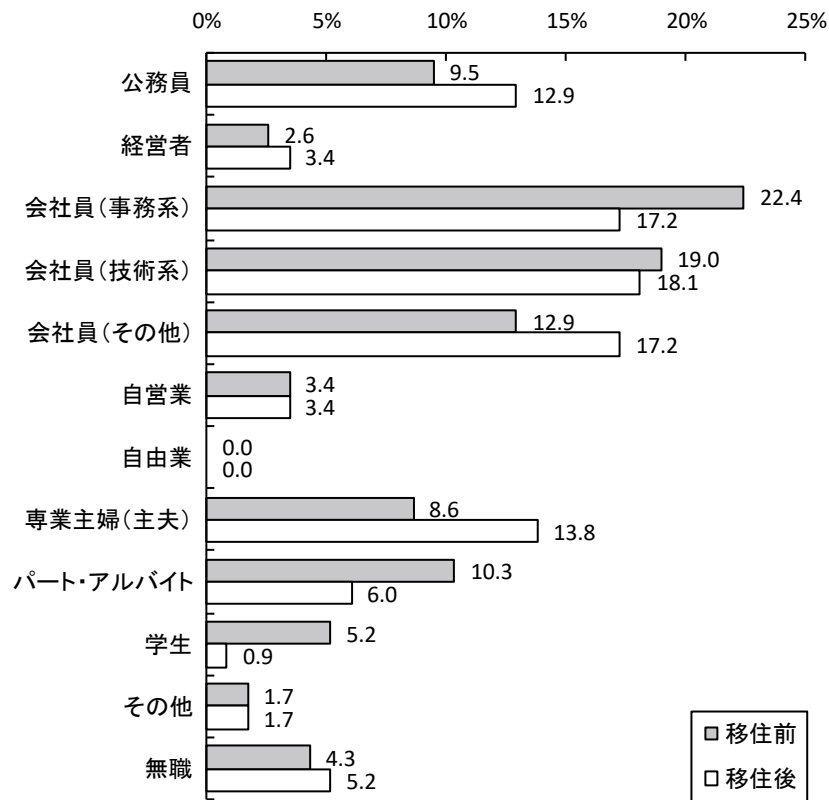


⑥ 移住前後の職業

職業をみると、移住前は「会社員（事務系）」が22.4%と最も高く、次いで「会社員（技術系）」が19.0%となっている。

また、移住後は「会社員（技術系）」が18.1%と最も高く、次いで「会社員（事務系）」「会社員（その他）」がともに17.2%となっている。移住前よりも「専業主婦（主夫）」がやや高くなっている。

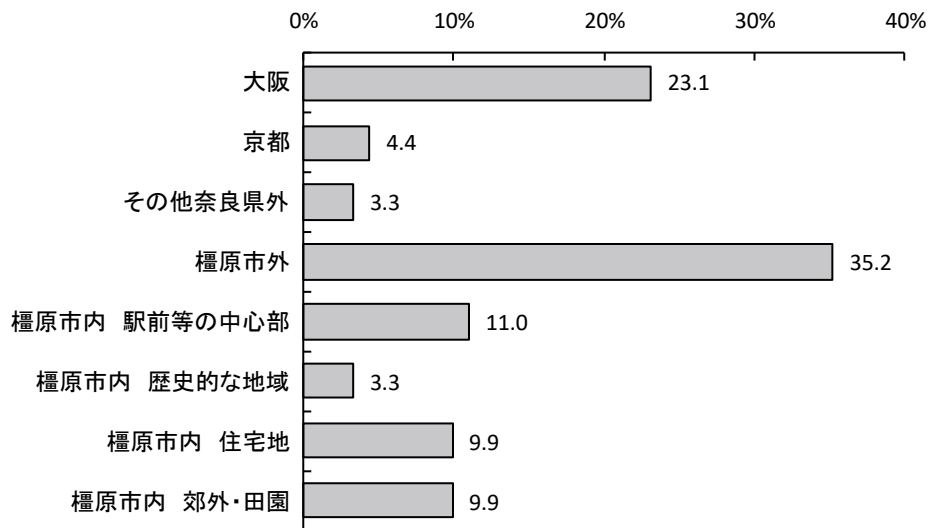
図表 4 7 移住前後の職業 [n=116]



⑦ 移住後の就業場所

現在、仕事をしている人について、就業場所をみると、「橿原市外」が 35.2%と最も高く、次いで「橿原市内」(地域合計)が 34.1%、「大阪」が 23.1%となっている。

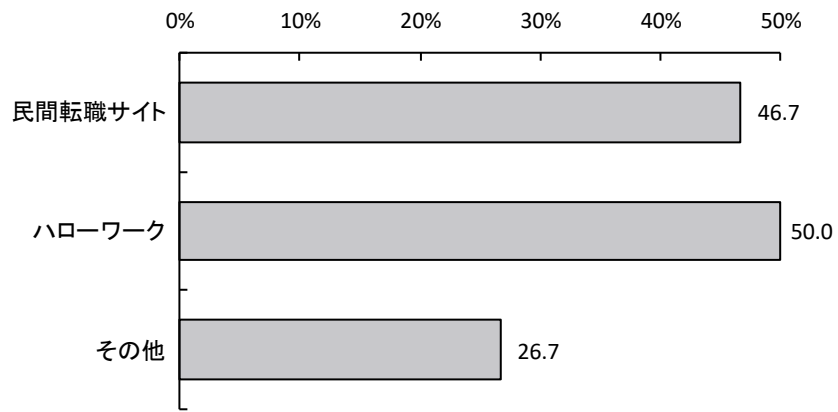
図表 4 8 移住後の就業場所 [n=91]



⑧ 移住に伴っての仕事の探し方

移住に伴って転職・転勤、就業等をした人について、仕事の探し方をみると、「ハローワーク」が 50.0%、「民間転職サイト」が 46.7%と、ほぼ同様となっている。

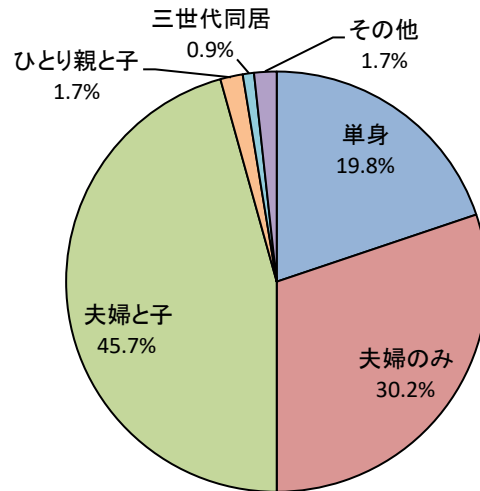
図表 4 9 移住に伴っての仕事の探し方 [n=30]



⑨ 世帯類型

世帯類型をみると、「夫婦と子」が45.7%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が30.2%となっている。

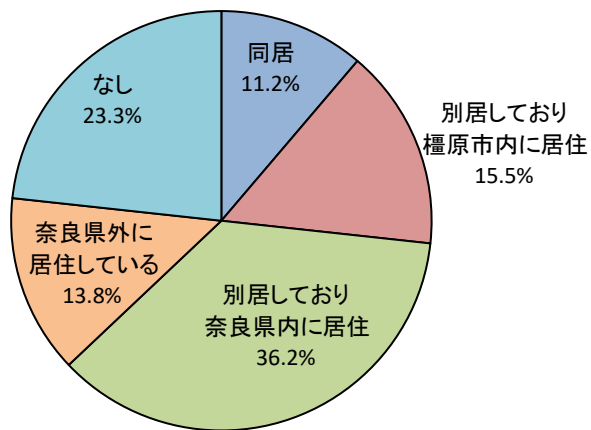
図表 5 0 世帯類型 [n=116]



⑩ 親世帯の居住地

親世帯の居住地をみると、「別居しており奈良県内に居住」が36.2%と最も高く、次いで「なし」が23.3%となっている。

図表 5 1 親世帯の居住地 [n=116]

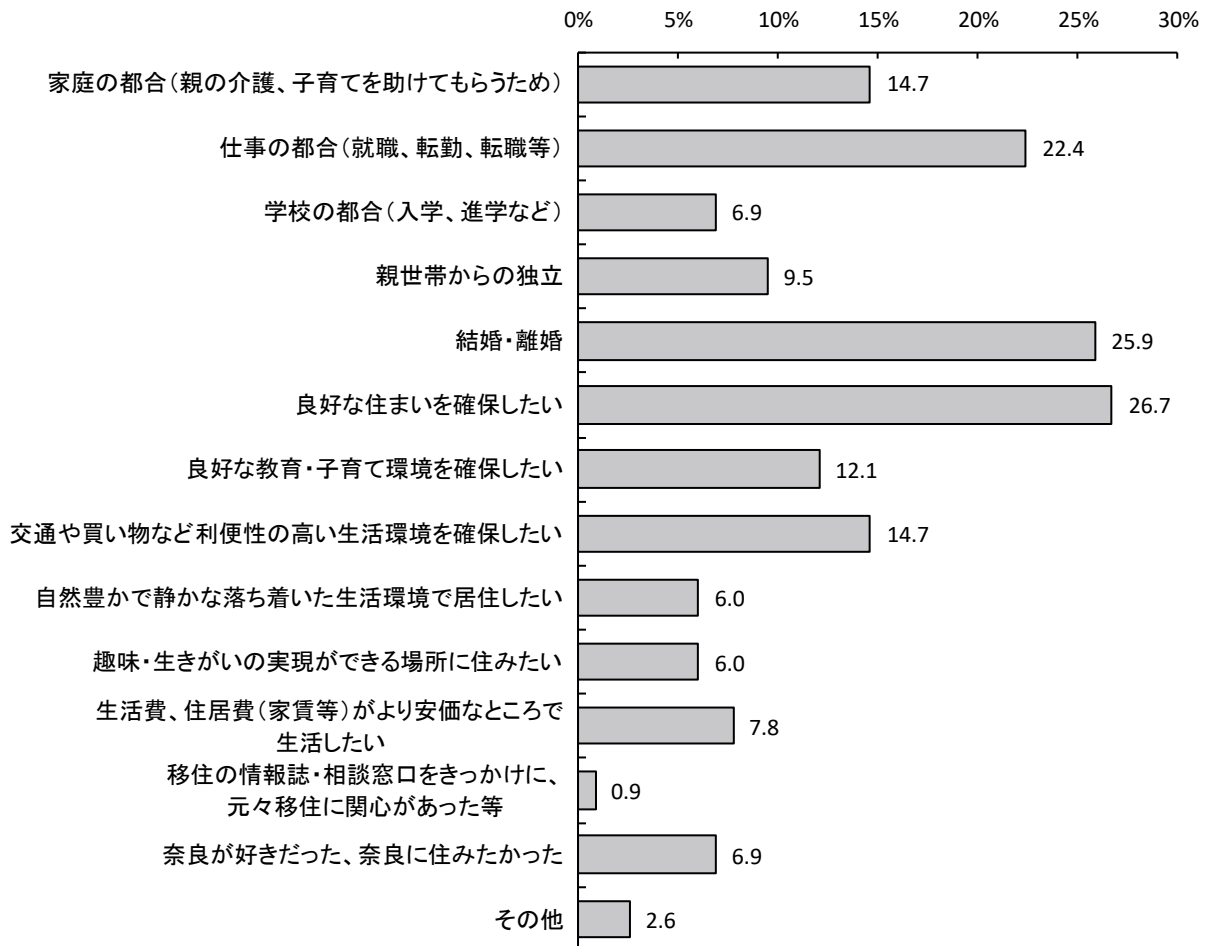


(2) 移住に至る経緯

① 前住地からの転出（移住）理由

前住地からの転出（移住）理由をみると、「良好な住まいを確保したい」が26.7%と最も高く、次いで「結婚・離婚」が25.9%、「仕事の都合（就職、転勤、転職等）」が22.4%となっている。

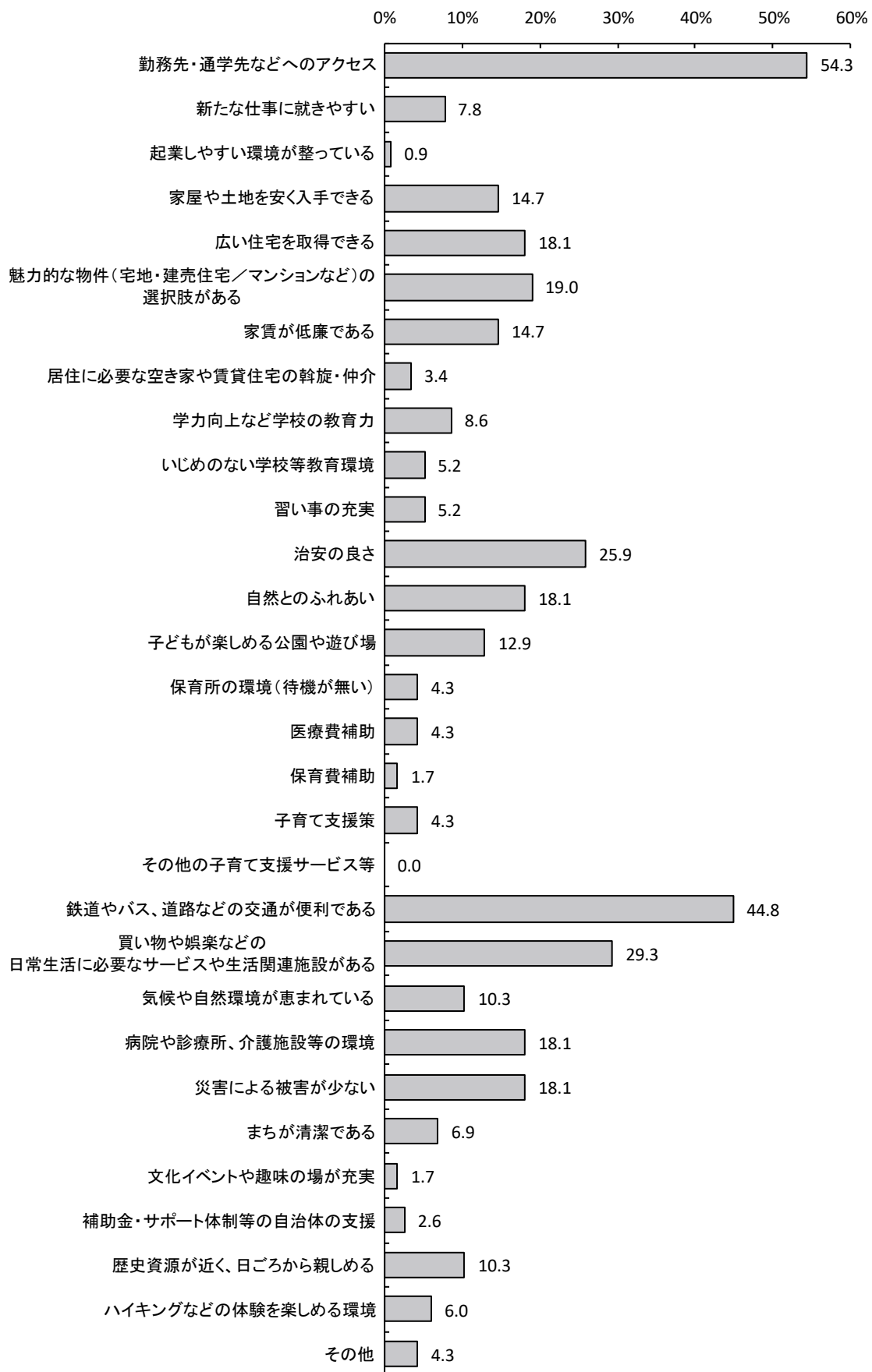
図表 5 2 前住地からの転出（移住）理由 [n=116]



② 移住先を選ぶ上で重視したポイント

移住先を選ぶ上で重視したポイントをみると、「勤務先・通学先などへのアクセス」が54.3%と最も高く、次いで「鉄道やバス、道路などの交通が便利である」が44.8%、「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設がある」が29.3%、「治安の良さ」が25.9%となっている。

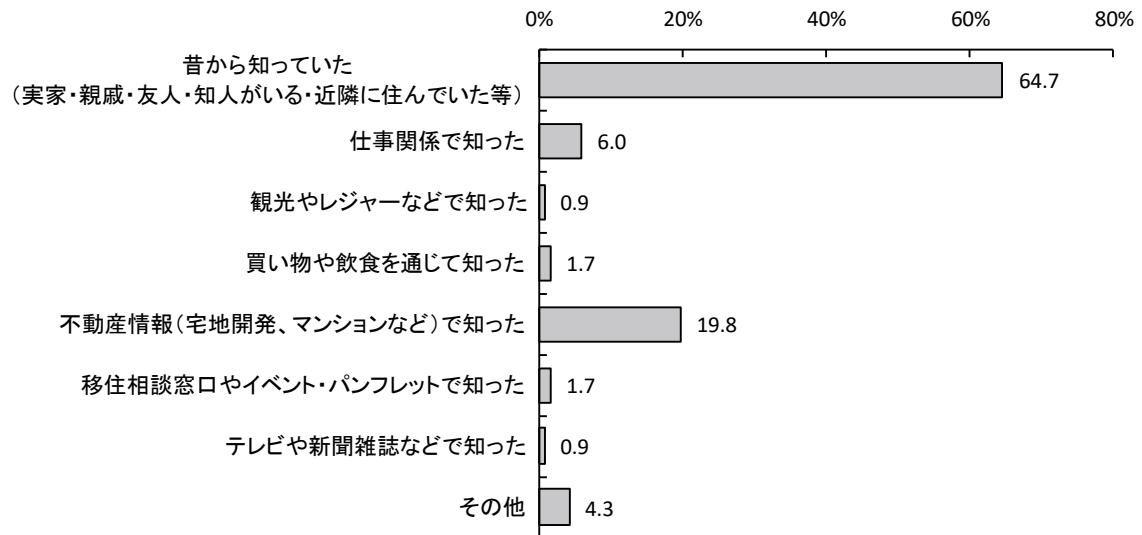
図表 5 3 移住先を選ぶ上で重視したポイント [n=116]



③ 移住先の認知のきっかけ

移住先の認知のきっかけをみると、「昔から知っていた（実家・親戚・友人・知人がいる・近隣に住んでいた等）」が64.7%と最も高く、次いで「不動産情報（宅地開発、マンションなど）で知った」が19.8%となっている。

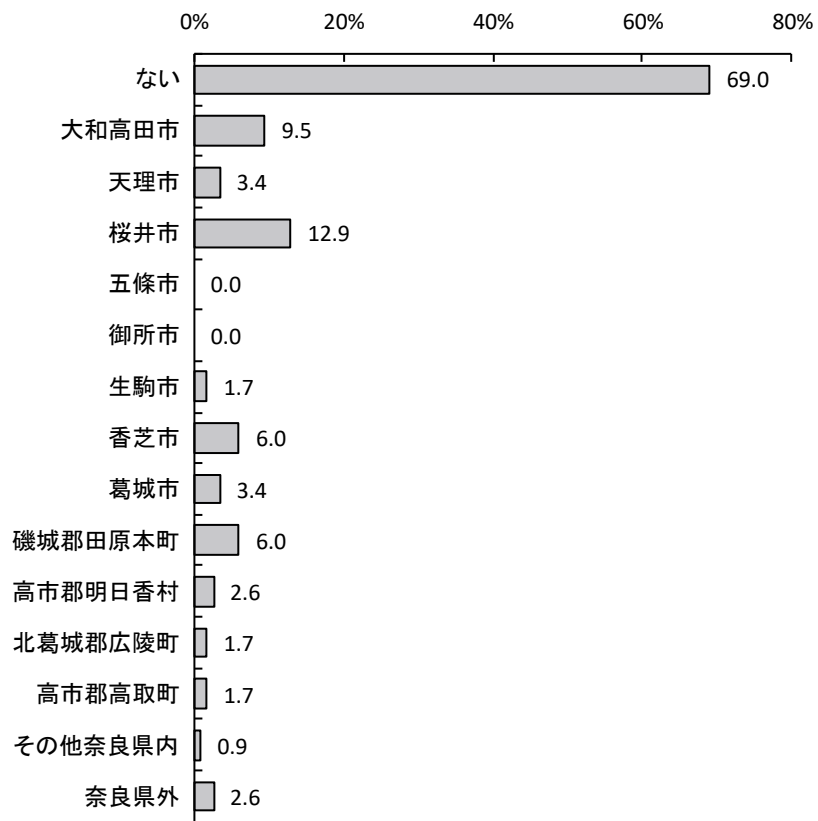
図表 5 4 移住先の認知のきっかけ [n=116]



④ 現住地域以外に検討した移住先

現住地域以外に検討した移住先をみると、「ない」が69.0%と最も高く、次いで「桜井市」が12.9%、「大和高田市」が9.5%となっている。

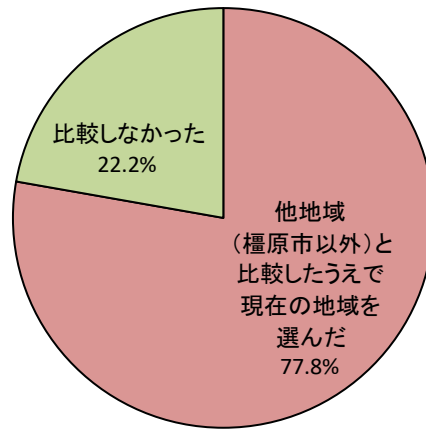
図表 5 5 現住地域以外に検討した移住先 [n=116]



⑤ 移住先の検討方法

現住地域以外の地域を移住先候補として検討した人について、移住先の検討方法をみると、「他地域（檀原市以外）と比較したうえで現在の地域を選んだ」が77.8%、「比較しなかった」が22.2%となっている。

図表 5 6 移住先の検討方法 [n=36]

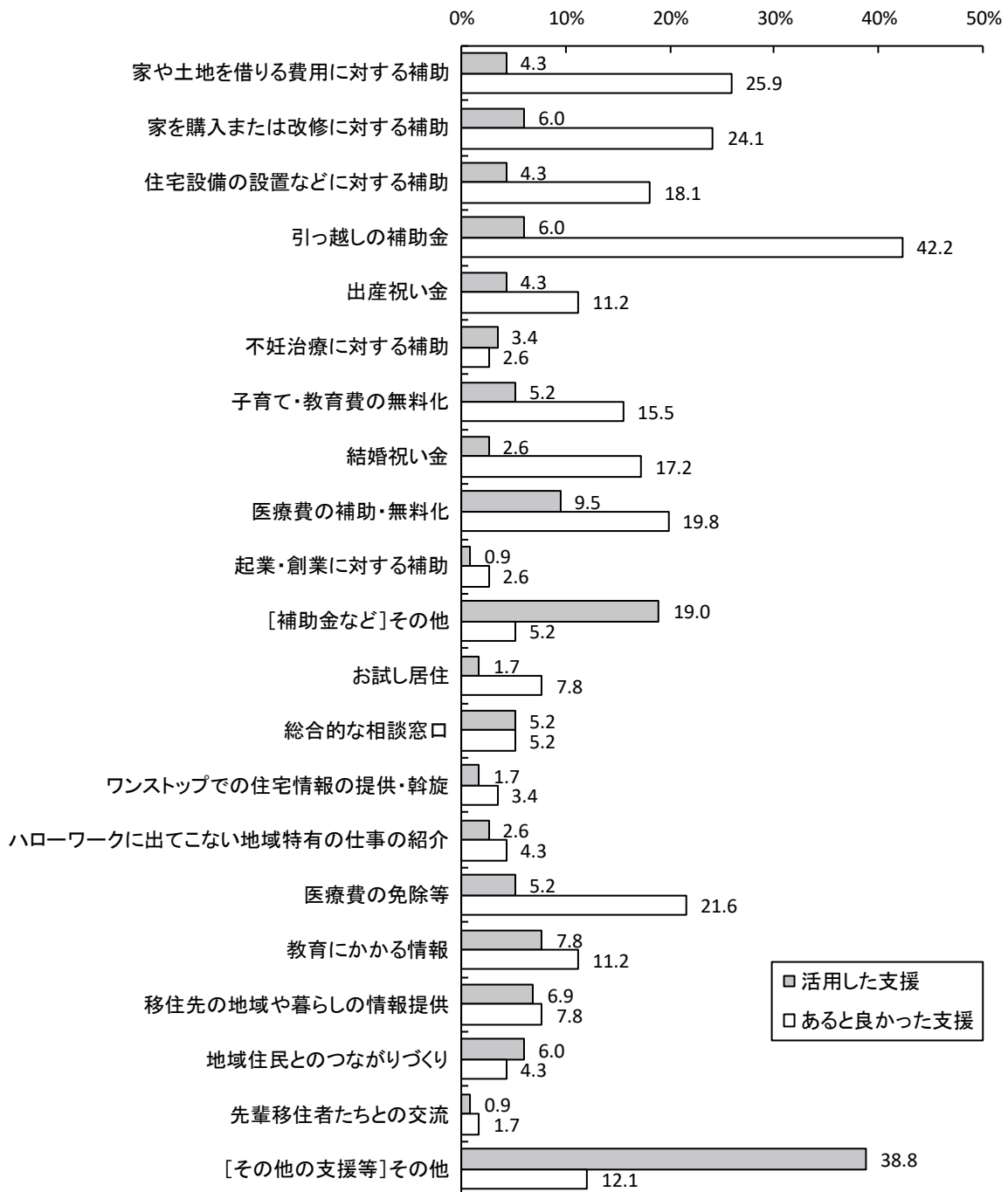


⑥ 移住に際して活用した・あると良かった支援

移住に際して活用した支援をみると、「その他」を除けば「医療費の補助・無料化」が9.5%と最も高く、次いで「教育にかかる情報」が7.8%となっている。

移住に際してあると良かった支援をみると、「引っ越しの補助金」が42.2%と最も高く、次いで「家や土地を借りる費用に対する補助」が25.9%、「家を購入または改修に対する補助」が24.1%、「医療費の免除等」が21.6%となっている。

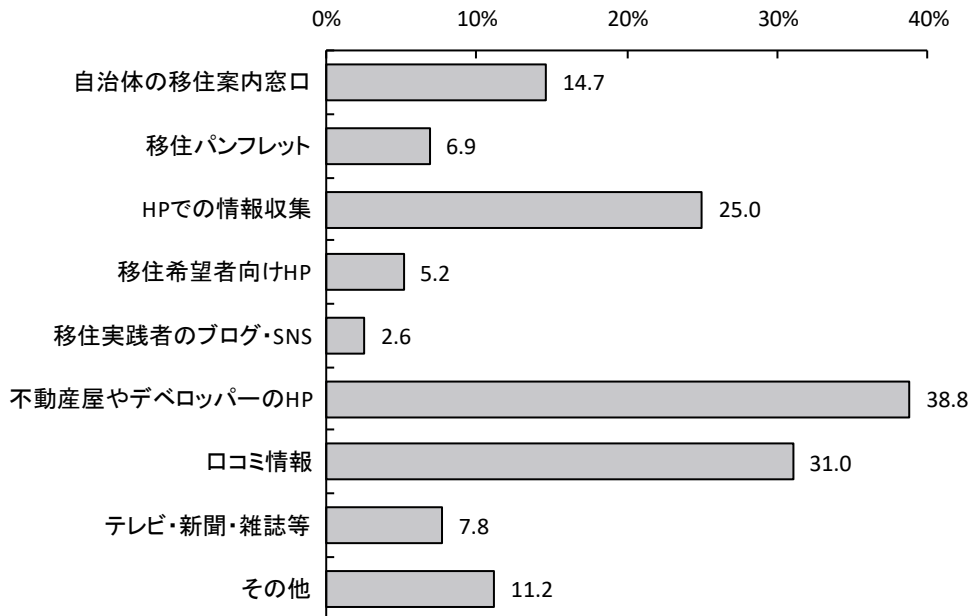
図表 5 7 移住に際して活用した・あると良かった支援 [n=116]



⑦ 移住先検討の際の情報収集方法

移住先検討の際の情報収集方法をみると、「不動産屋やデベロッパーのHP」が38.8%と最も高く、次いで「口コミ情報」が31.0%、「HPでの情報収集」が25.0%となっている。

図表 5 8 移住先検討の際の情報収集方法 [n=116]

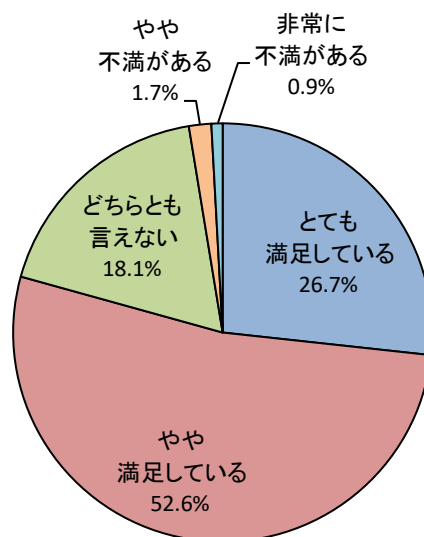


(3) 移住後の満足度

移住後の満足度をみると、「やや満足している」が52.6%と最も高く、次いで「とても満足している」が26.7%となっている。

満足している人（「とても満足している」「やや満足している」の計）は79.3%、不満がある人（「やや不満がある」「非常に不満がある」の計）は2.6%となっている。

図表 5 9 移住後の満足度 [n=116]

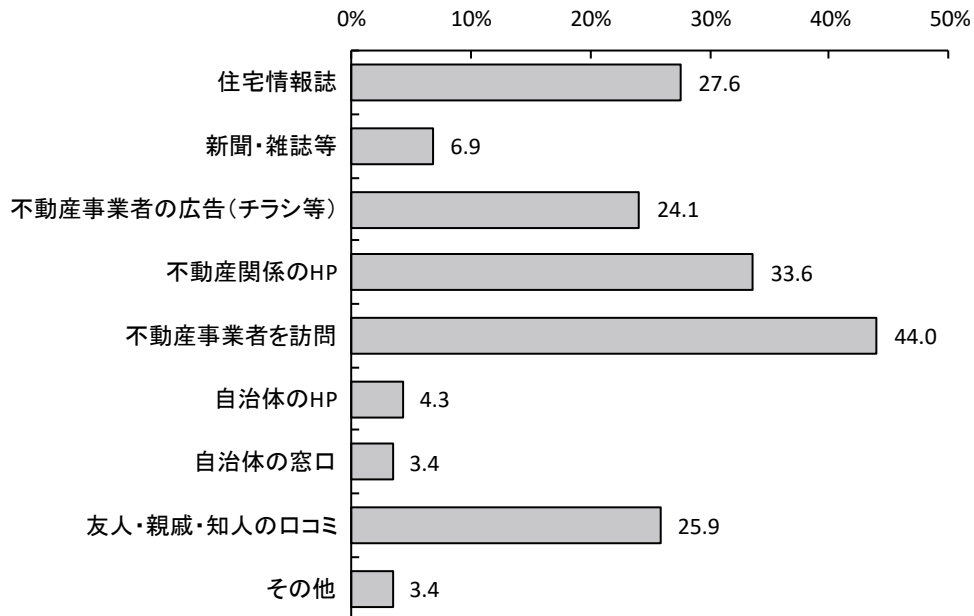


(4) 住まい探しについて

① 移住するにあたっての住まい探しの方法

移住するにあたっての住まい探しの方法をみると、「不動産事業者を訪問」が44.0%と最も高く、次いで「不動産関係のHP」が33.6%となっている。

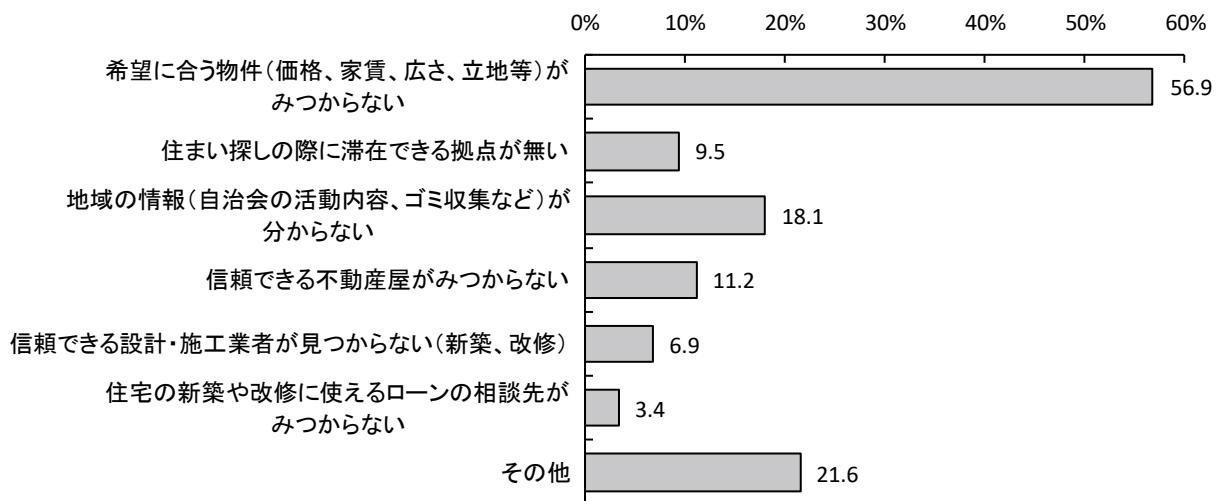
図表 60 移住するにあたっての住まい探しの方法 [n=116]



② 住まい探しで困ったこと

住まい探しで困ったことをみると、「希望に合う物件(価格、家賃、広さ、立地等)が見つからない」が56.9%と最も高く、次いで「地域の情報(自治会の活動内容、ゴミ収集など)が分からない」が18.1%となっている。

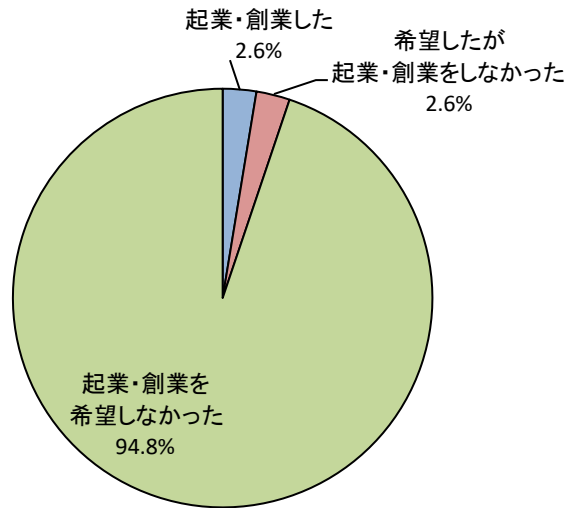
図表 61 住まい探しで困ったこと [n=116]



(5) 移住に伴う起業・創業について

移住に伴う起業・創業の有無をみると、「起業・創業を希望しなかった」が 94.8%と最も高くなっている。

図表 6 2 移住に伴う起業・創業の有無 [n=116]



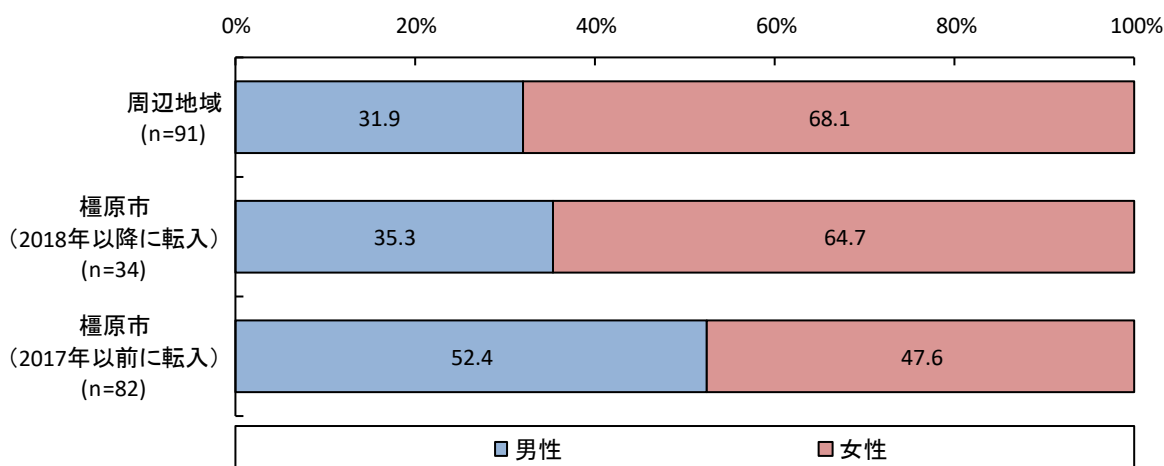
IV. 重点分析（居住地・転入時期別集計）

1. 回答者属性

① 性別

『周辺地域』『橿原市（2018年以降に転入）』は「女性」が「男性」よりも高くなっているが、
『橿原市（2017年以前に転入）』は「男性」「女性」がほぼ同数となっている。

図表 6 3 性別



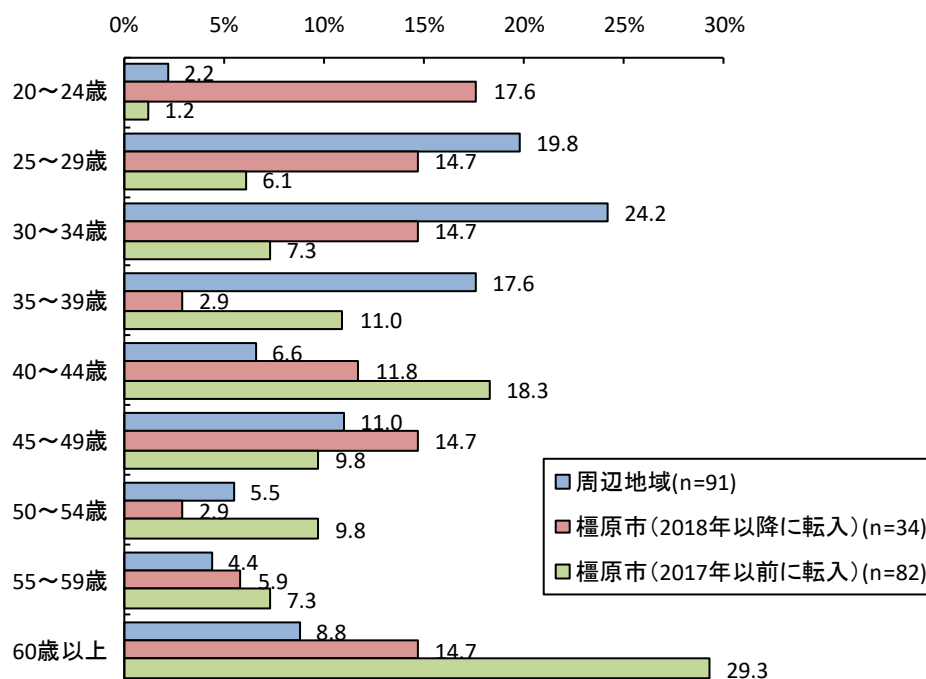
② 年齢

『周辺地域』は25～39歳が高くなっている。

『橿原市（2018年以降に転入）』は20～34歳、40～49歳が高くなっている。

『橿原市（2017年以前に転入）』は40～49歳、60歳以上が高くなっている。

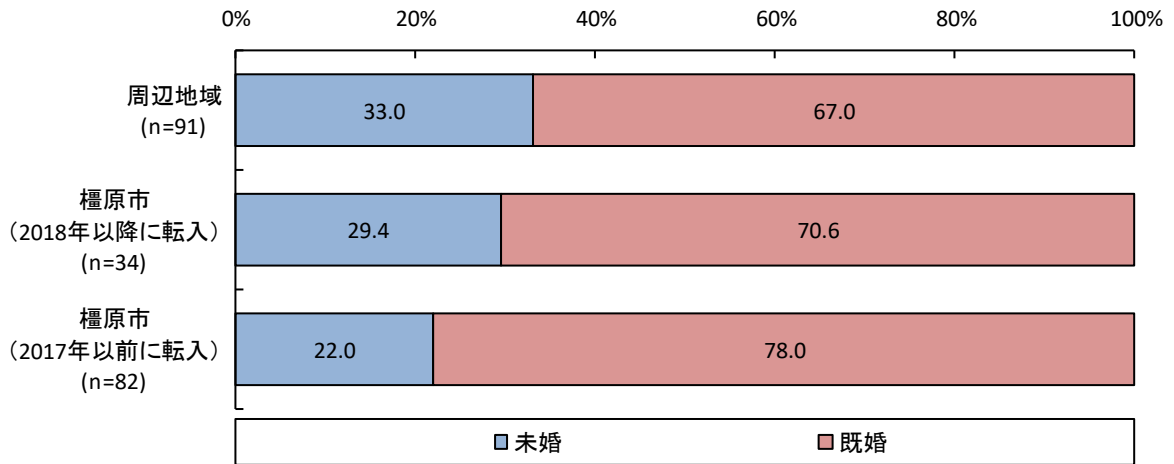
図表 6 4 年齢



③ 未既婚

『周辺地域』『橿原市（2018年以降に転入）』は「既婚」が7割前後を占めるが、『橿原市（2017年以前に転入）』は「既婚」が8割弱となっている。

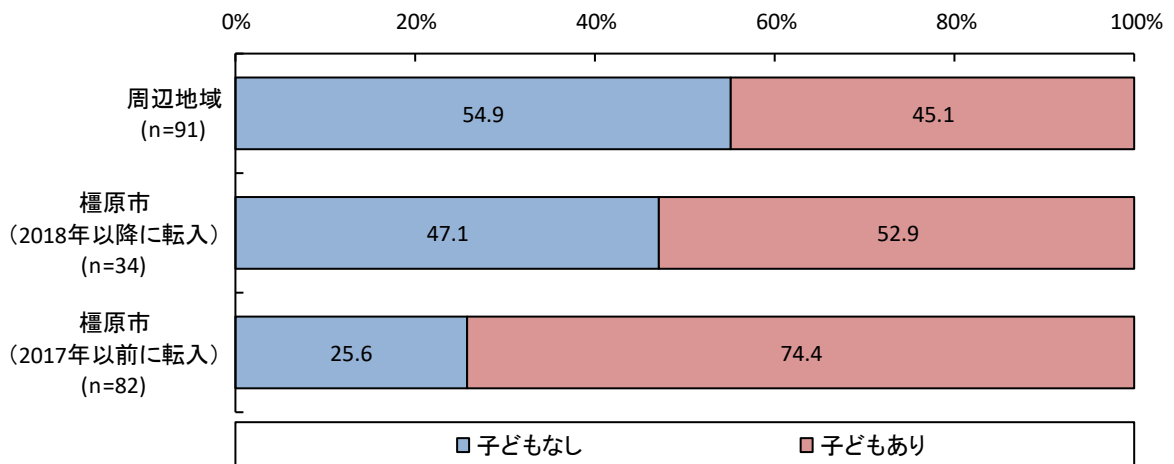
図表 6 5 未既婚



④ 子どもの有無

『周辺地域』『橿原市（2018年以降に転入）』は「子どもなし」「子どもあり」がほぼ同数となっているが、『橿原市（2017年以前に転入）』は「子どもあり」が「子どもなし」よりも高くなっている。

図表 6 6 子どもの有無



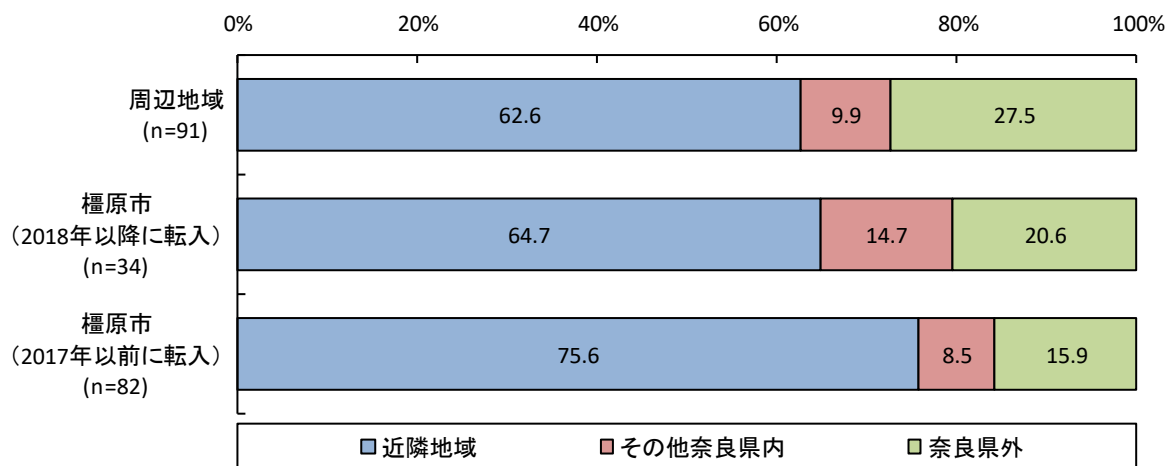
2. 本調査

(1) 住まい・仕事について

① 前住地

『周辺地域』『橿原市(2018年以降に転入)』は「近隣地域」が6割強を占めるが、『橿原市(2017年以前に転入)』は「近隣地域」が8割弱となっている。

図表 6 7 前住地



(2) 移住に至る経緯

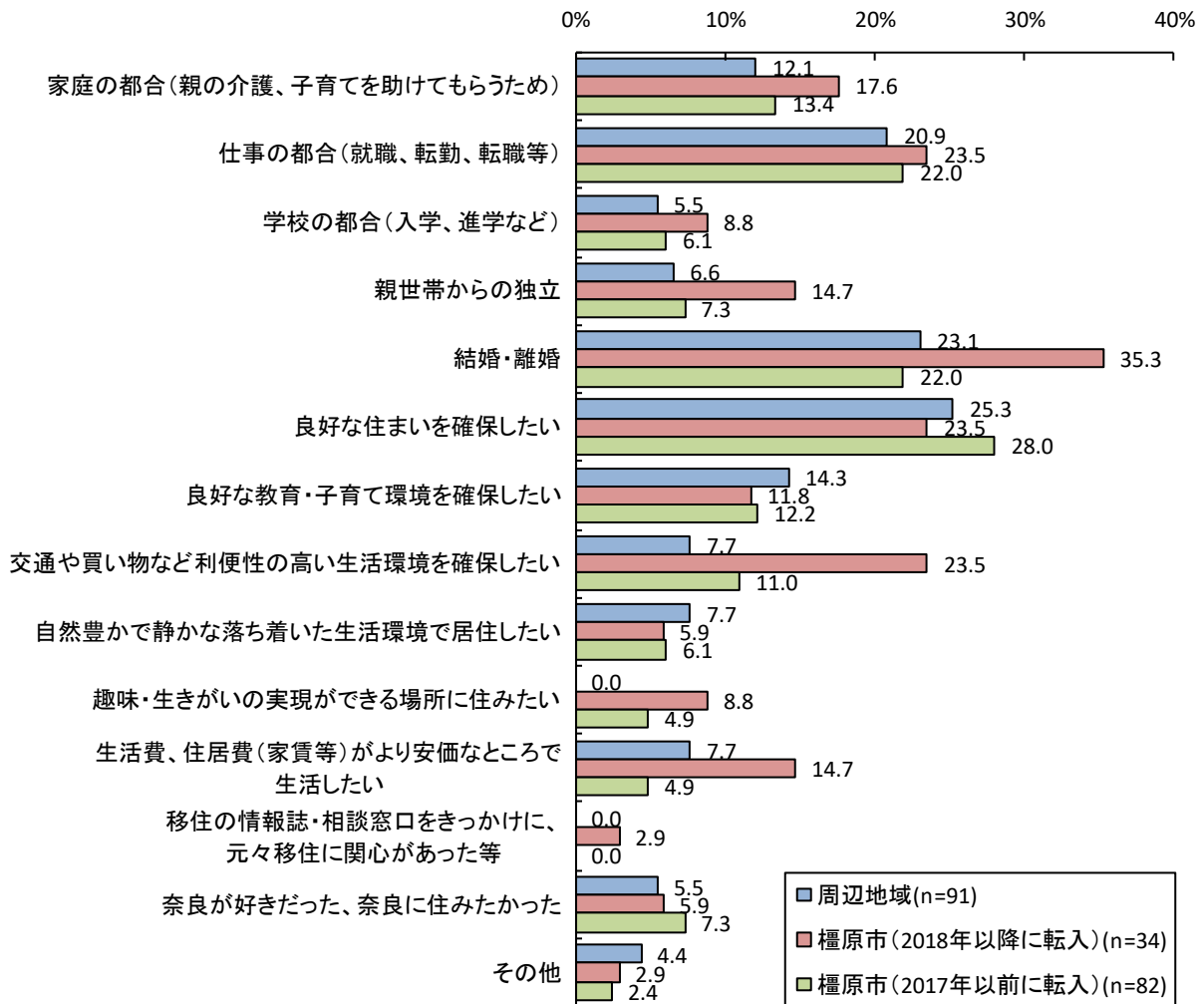
① 前住地からの転出（移住）理由

『周辺地域』は「良好な住まいを確保したい」「結婚・離婚」が高くなっている。

『橿原市（2018年以降に転入）』は「結婚・離婚」「交通や買い物など利便性の高い生活環境を確保したい」「仕事の都合（就職、転勤、転職等）」「良好な住まいを確保したい」が高くなっている。

『橿原市（2017年以前に転入）』は「良好な住まいを確保したい」が高くなっている。

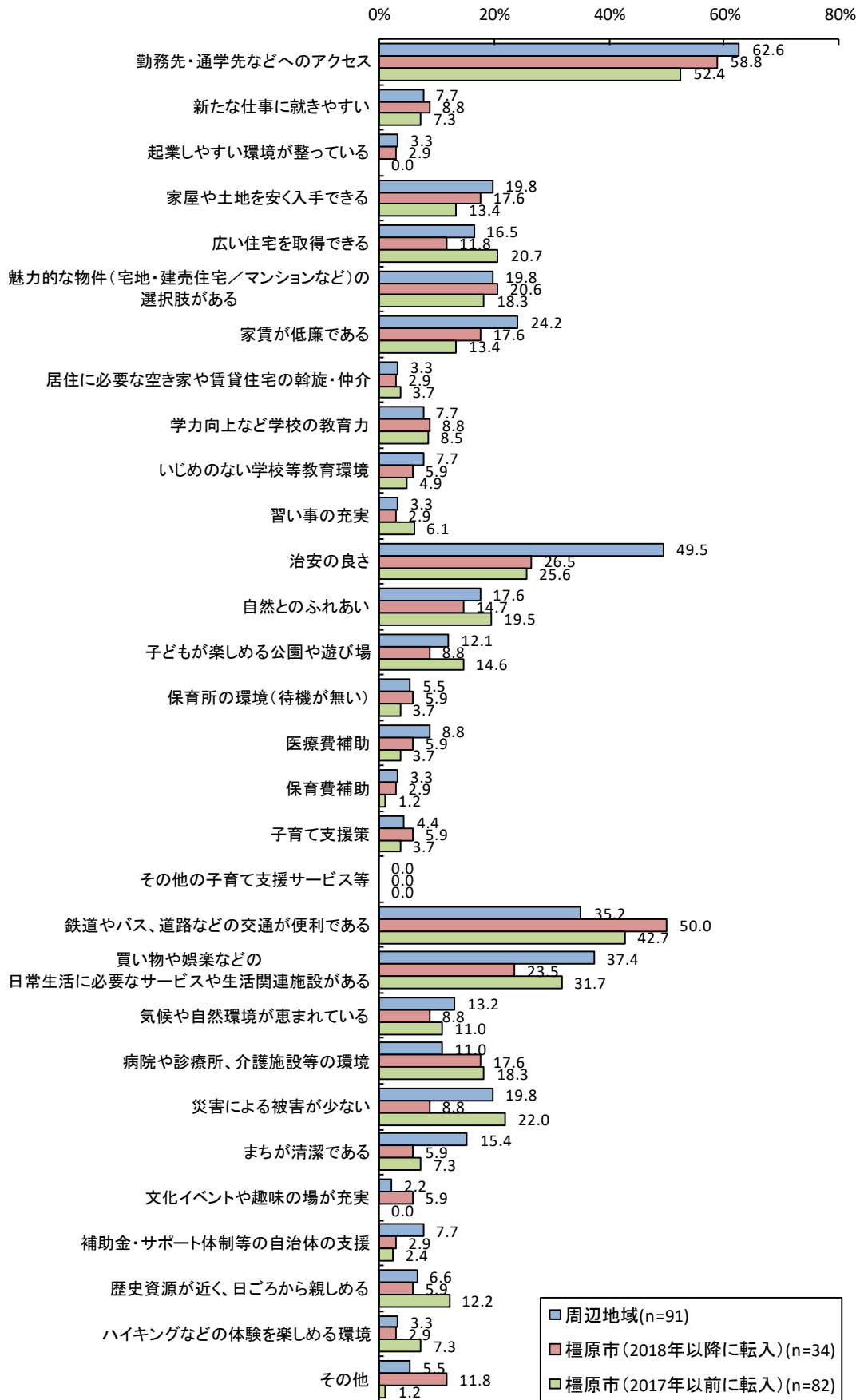
図表 6 8 前住地からの転出（移住）理由



② 移住先を選ぶ上で重視したポイント

「勤務先・通学先などへのアクセス」が最も高くなっているが、次いで、『周辺地域』は「治安の良さ」、『橿原市（2018年以降に転入）』『橿原市（2017年以前に転入）』は「鉄道やバス、道路などの交通が便利である」となっている。

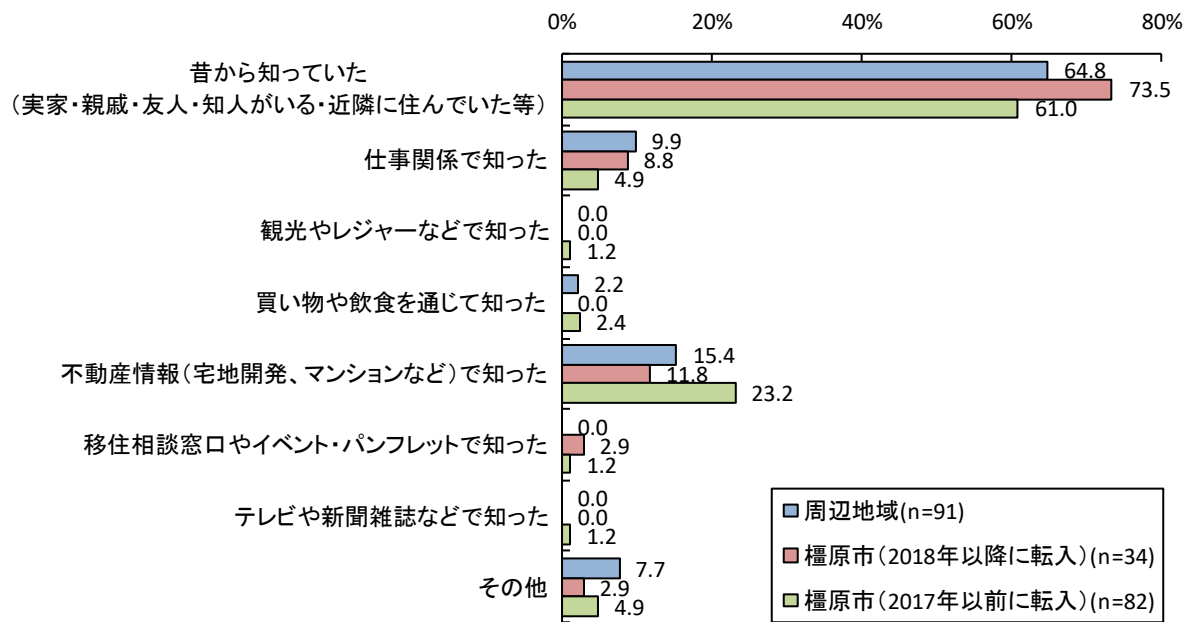
図表 6 9 移住先を選ぶ上で重視したポイント



③ 移住先の認知のきっかけ

居住地・転入時期による大きな差はみられない。

図表 70 移住先の認知のきっかけ

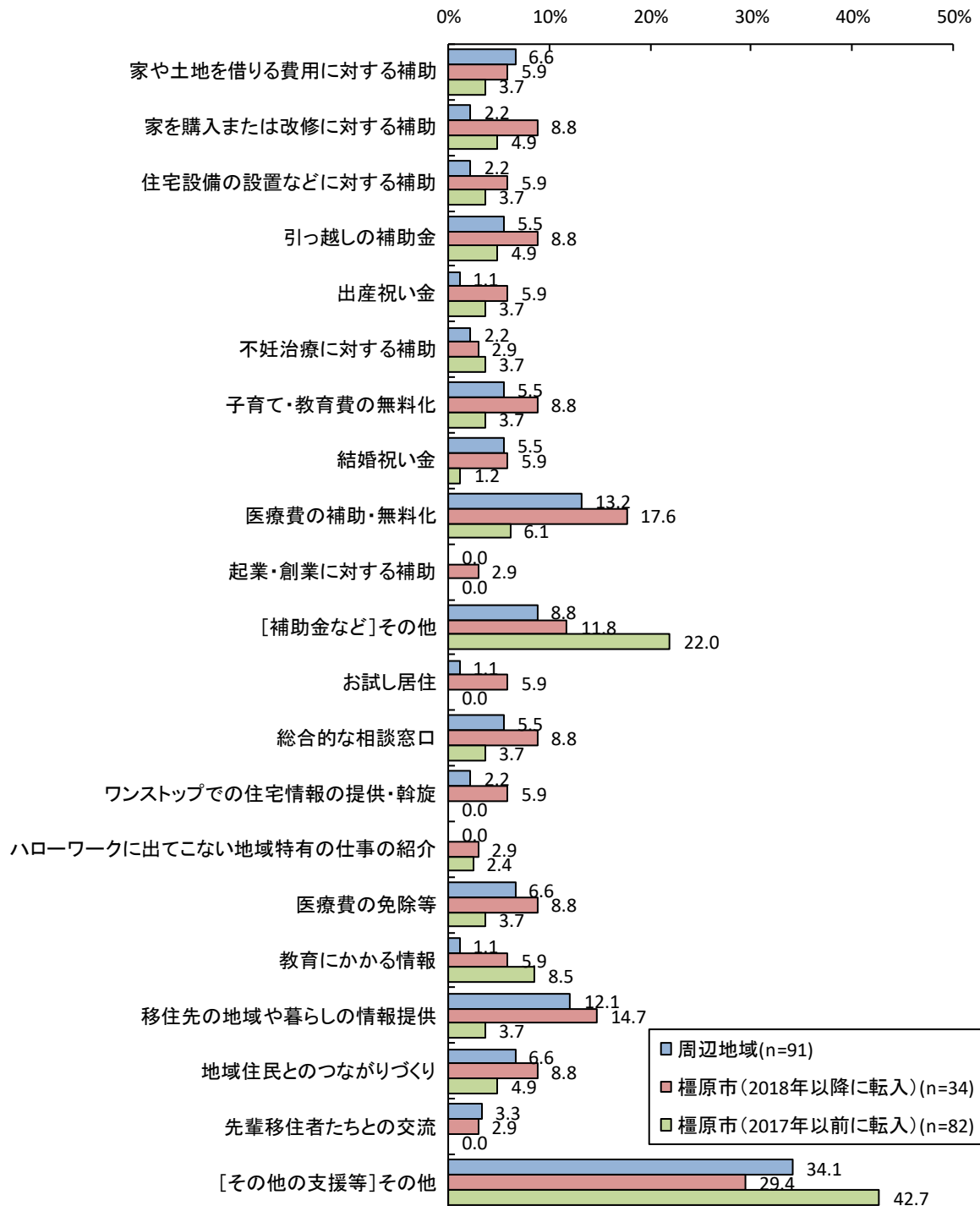


④ 移住に際して活用した支援

「その他」を除くと、『周辺地域』『橿原市（2018年以降に転入）』は「医療費の補助・無料化」「移住先の地域や暮らしの情報提供」が高くなっている。

『橿原市（2017年以前に転入）』は、「その他」以外の支援は1割に満たない。

図表 7 1 移住に際して活用した支援

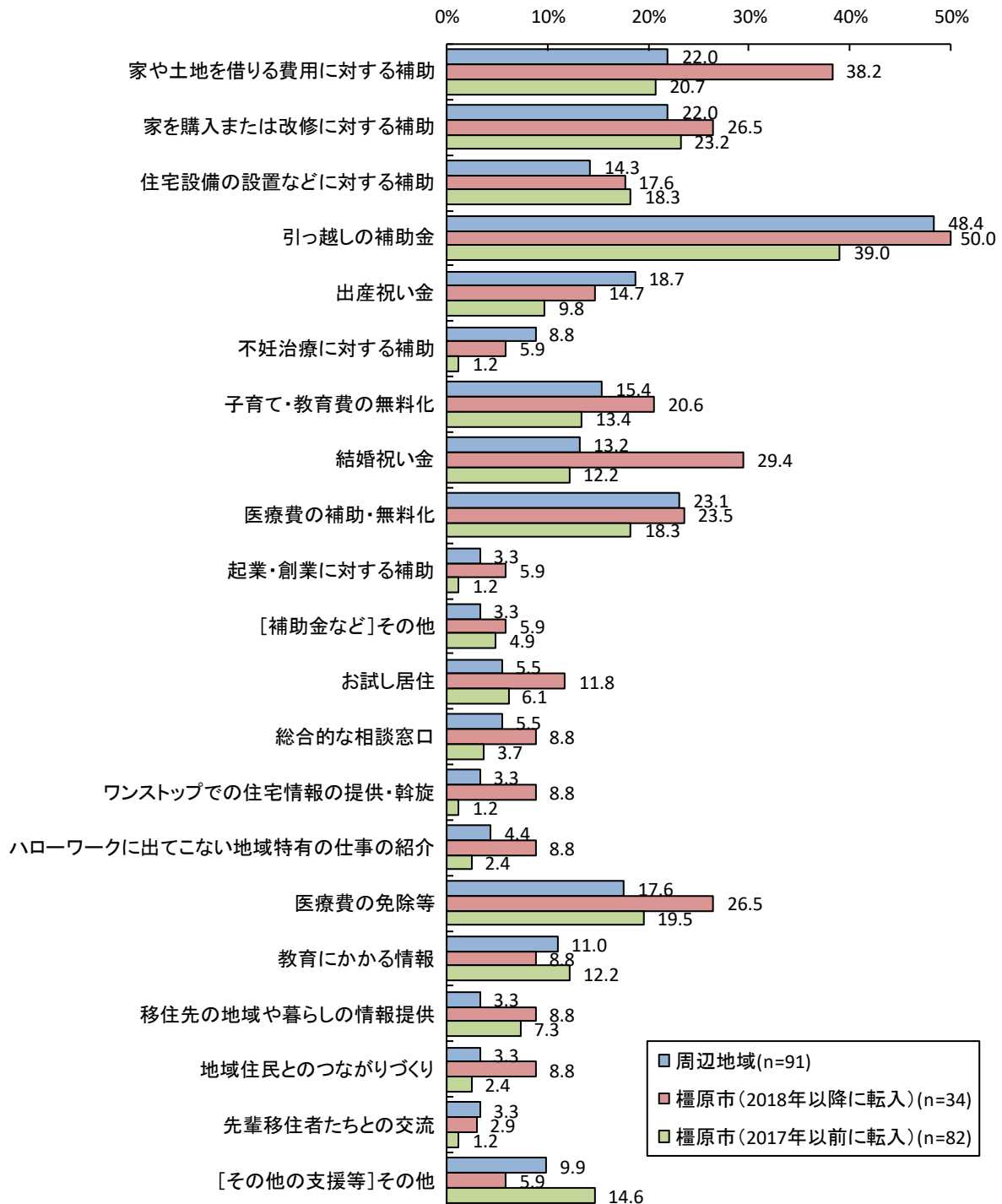


⑤ 移住に際してであると良かった支援

『周辺地域』『橿原市（2017年以前に転入）』は「引っ越しの補助金」が高くなっている。

『橿原市（2018年以降に転入）』は「引っ越しの補助金」「家や土地を借りる費用に対する補助」「結婚祝い金」が高くなっている。

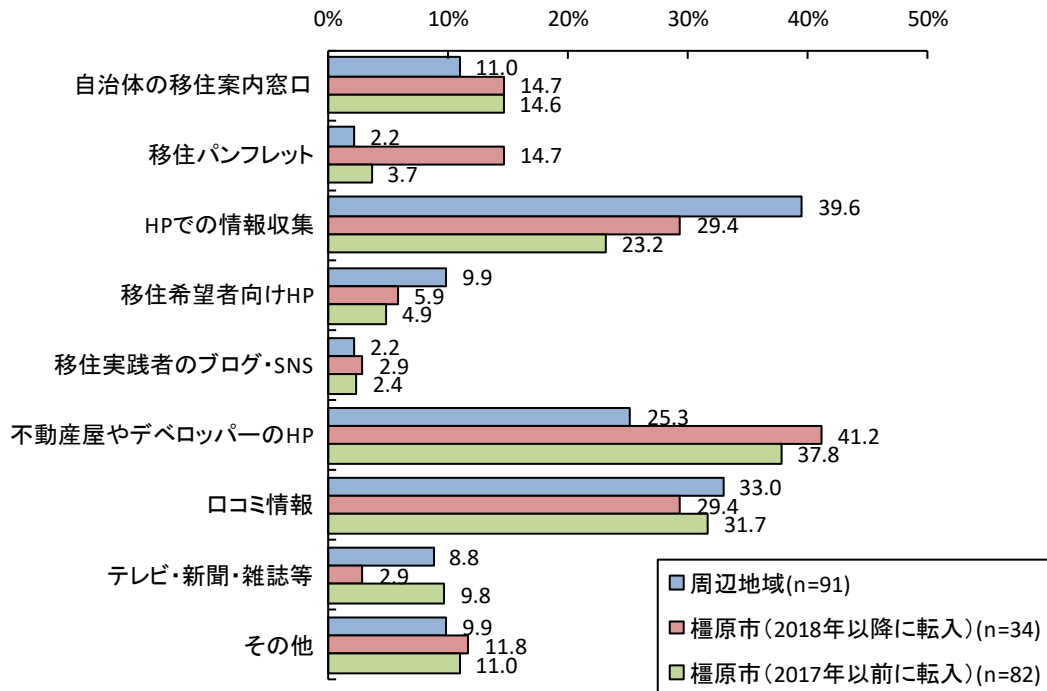
図表 7 2 移住に際してであると良かった支援



⑥ 移住先検討の際の情報収集方法

『周辺地域』は「HPでの情報収集」「口コミ情報」が高くなっている。
 『檀原市（2018年以降に転入）』は「不動産屋やデベロッパーのHP」が高くなっている。
 『檀原市（2017年以前に転入）』は「不動産屋やデベロッパーのHP」「口コミ情報」が高くなっている。

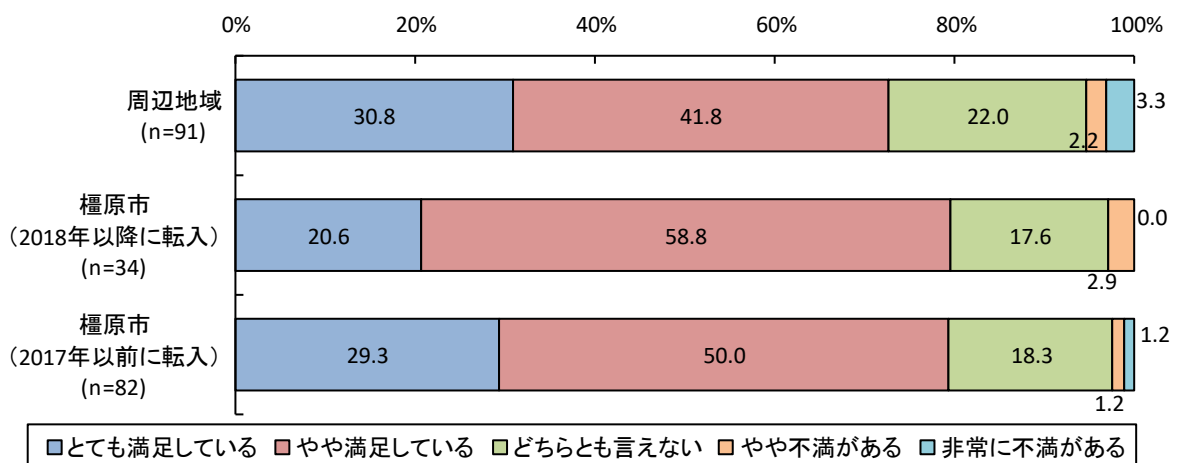
図表 7 3 移住先検討の際の情報収集方法



(3) 移住後の満足度

各属性とも「やや満足している」が最も高くなっている。
 満足している人（「とても満足している」「やや満足している」の計）は、『周辺地域』では7割強、『檀原市（2018年以降に転入）』『檀原市（2017年以前に転入）』では約8割となっている。

図表 7 4 移住後の満足度



(4) 住まい探しについて

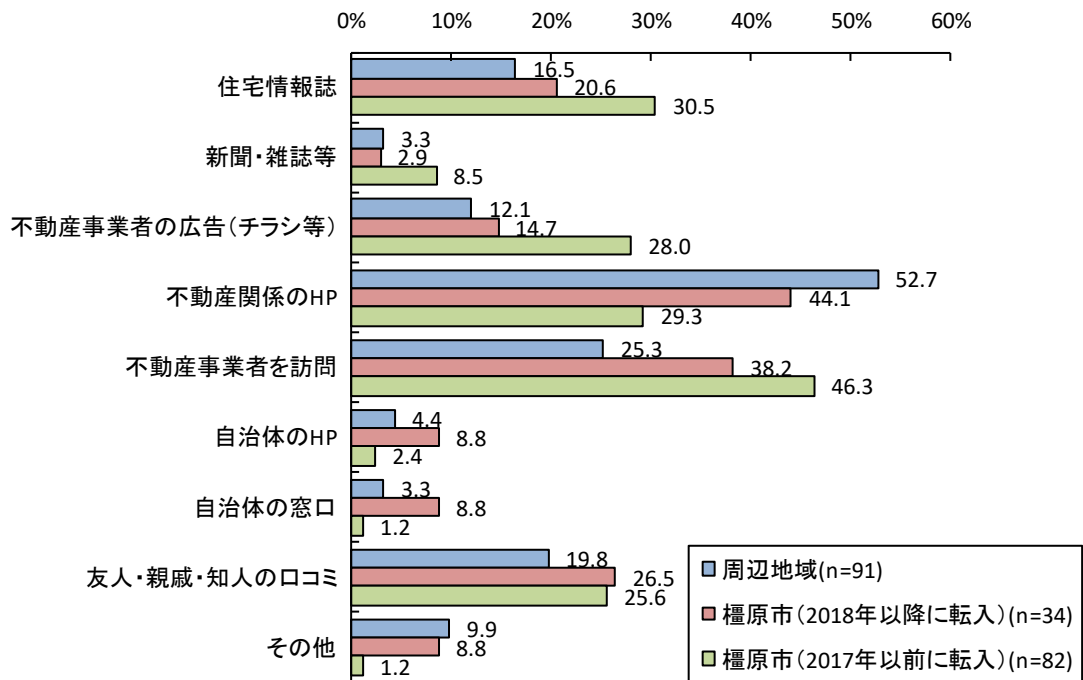
① 移住するにあたっての住まい探しの方法

『周辺地域』は「不動産関係のHP」が高くなっている。

『檀原市（2018年以降に転入）』は「不動産関係のHP」「不動産事業者を訪問」が高くなっている。

『檀原市（2017年以前に転入）』は「不動産事業者を訪問」「住宅情報誌」が高くなっている。

図表 7 5 移住するにあたっての住まい探しの方法



② 住まい探しで困ったこと

居住地・転入時期による大きな差はみられない。

図表 7 6 住まい探しで困ったこと

